

三浦工業株式会社

決算説明及びミウラの成長戦略

三浦工業株式会社

代表取締役 社長執行役員 CEO 宮内 大介

開催日
2016年11月21日(月)

熱・水・環境のベストパートナー



目次

1	会社概要	2
2	2017年3月期第2Q決算の概要	4
3	利益配分、株式の状況	12
4	バラスト水処理装置	14
5	参考資料	30

注意事項

本資料のうち、今後の計画・見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値とは異なる場合があります。掲載内容には、細心の注意を払っておりますが、掲載された内容に基づいて被った損害については、弊社は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

1. 会社概要

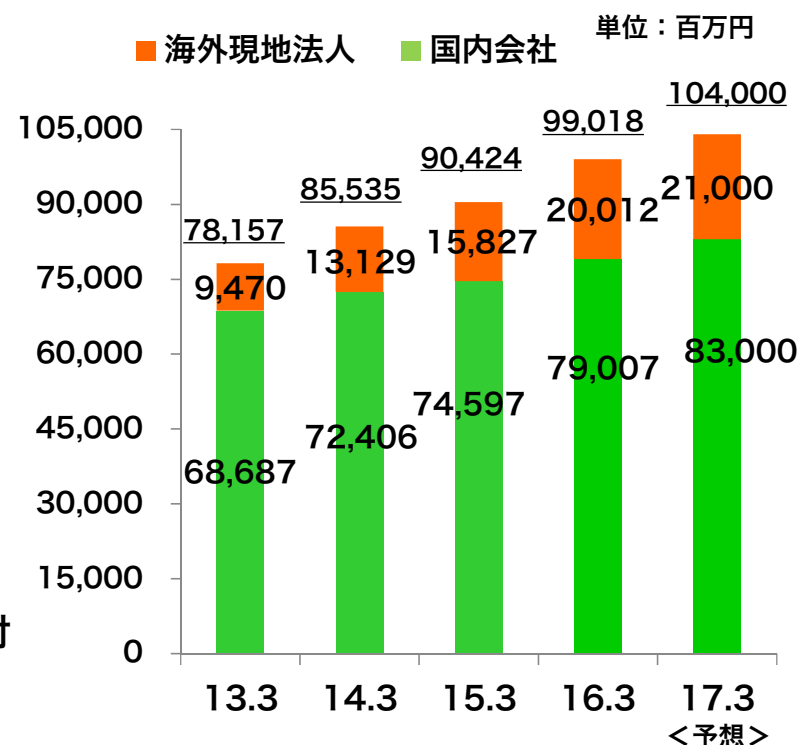
熱・水・環境のベストパートナー



会社概要

所在地 愛媛県松山市堀江町7番地
 設立 1959年5月
 グループ会社 国内 8社（うち連結 7社）
 海外 15社（うち連結 10社）
 従業員 連結 4,855名
 グループ 4,917名（うち海外 1,323名）
 事業内容 機器販売事業
 メンテナンス事業
 格付情報 発行体格付「A」
 株式会社格付投資情報センター（R&I）
 2016年9月16日付
 2005年度より11年連続「A」評価

【連結売上高】



	15年3月期	16年3月期	17年3月期 (予想)
売上高 (百万円)	90,424	99,019	104,000
経常利益 (百万円)	10,799	10,887	11,400
親会社株主に帰属する純利益 (百万円)	7,464	7,476	7,800
自己資本比率 (%)	79.5	78.4	—
1株当たり純資産 (円)	915.75	947.00	—

2. 2017年3月期第2Q決算の概要

連結業績

[単位：百万円]

	15年9月期	16年9月期	17年3月期 通期予想
売上高	46,585	46,804	104,000
売上原価	27,549	27,622	61,600
販管費	14,452	14,680	32,000
営業利益	4,584	4,501	10,400
経常利益	4,925	4,696	11,400
親会社株主に帰属する純利益	3,254	3,028	7,800

決算の概要

《国内》 船用機器、特機の売上増

- ・ 船用機器（バラスト水処理機器）および特機が売上増
- ・ ボイラ、食機、メディカルなどは微増

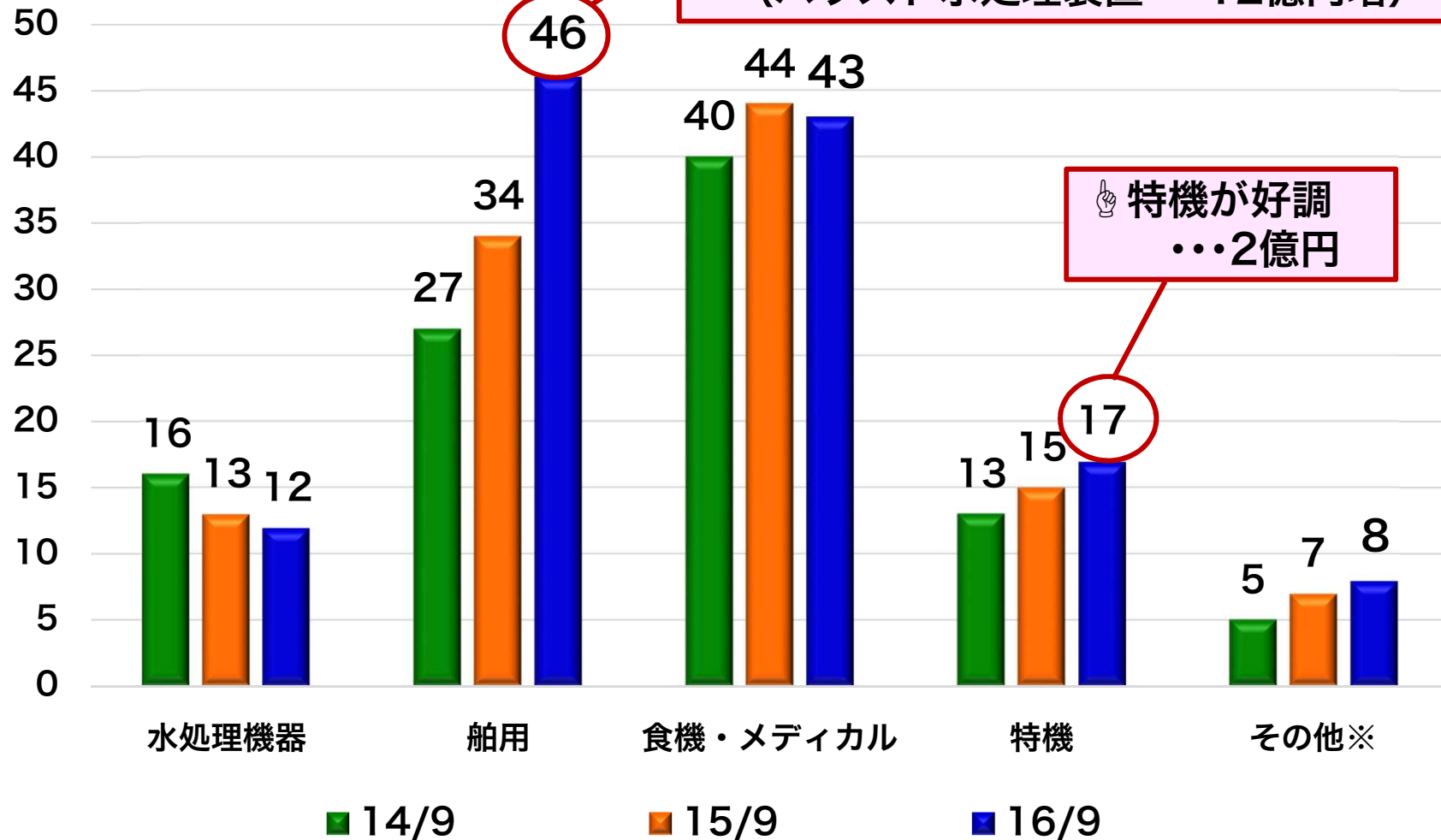
《海外》 為替の影響を大きく受けたが、メンテナンスは伸ばしている

- ・ 各国とも為替の影響を受けたもののメンテナンスは円ベースでも増加

減価償却費・人件費などが増加

国内売上の分析

単位：億円



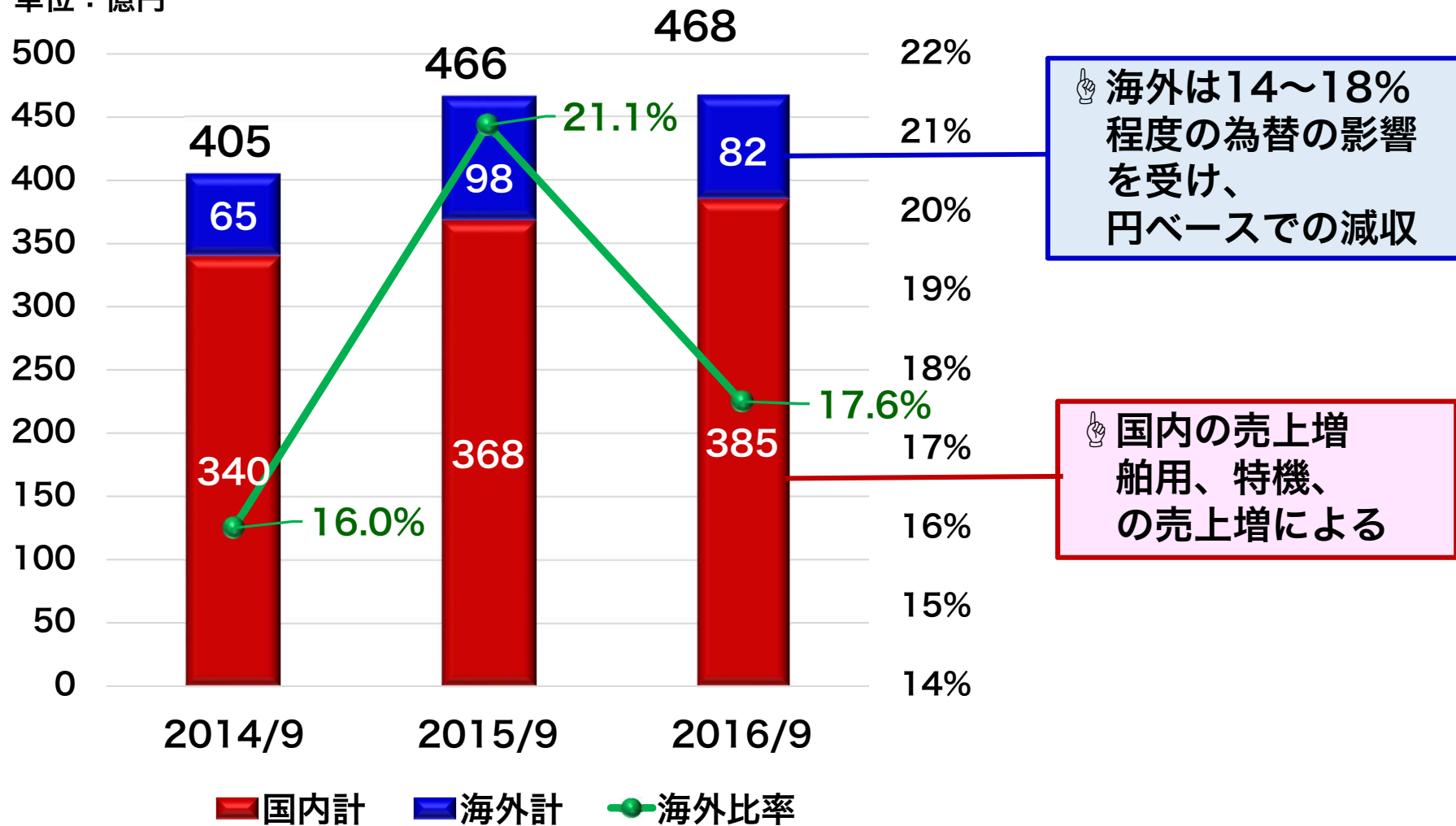
↑ 船用機器の伸び大
(バラスト水処理装置…12億円増)

↑ 特機が好調
…2億円

※その他…新事業開発・環境

国内及び海外売上推移

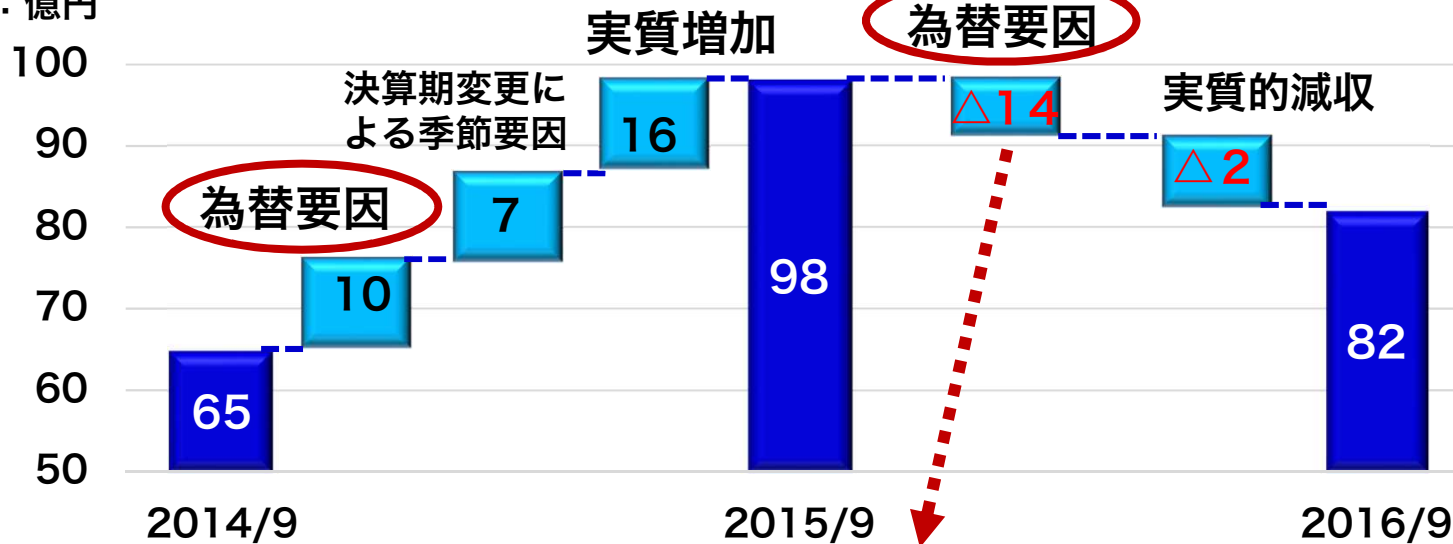
単位：億円



海外売上分析

海外は為替の影響と下期へのずれこみ・昨年度の季節的要因

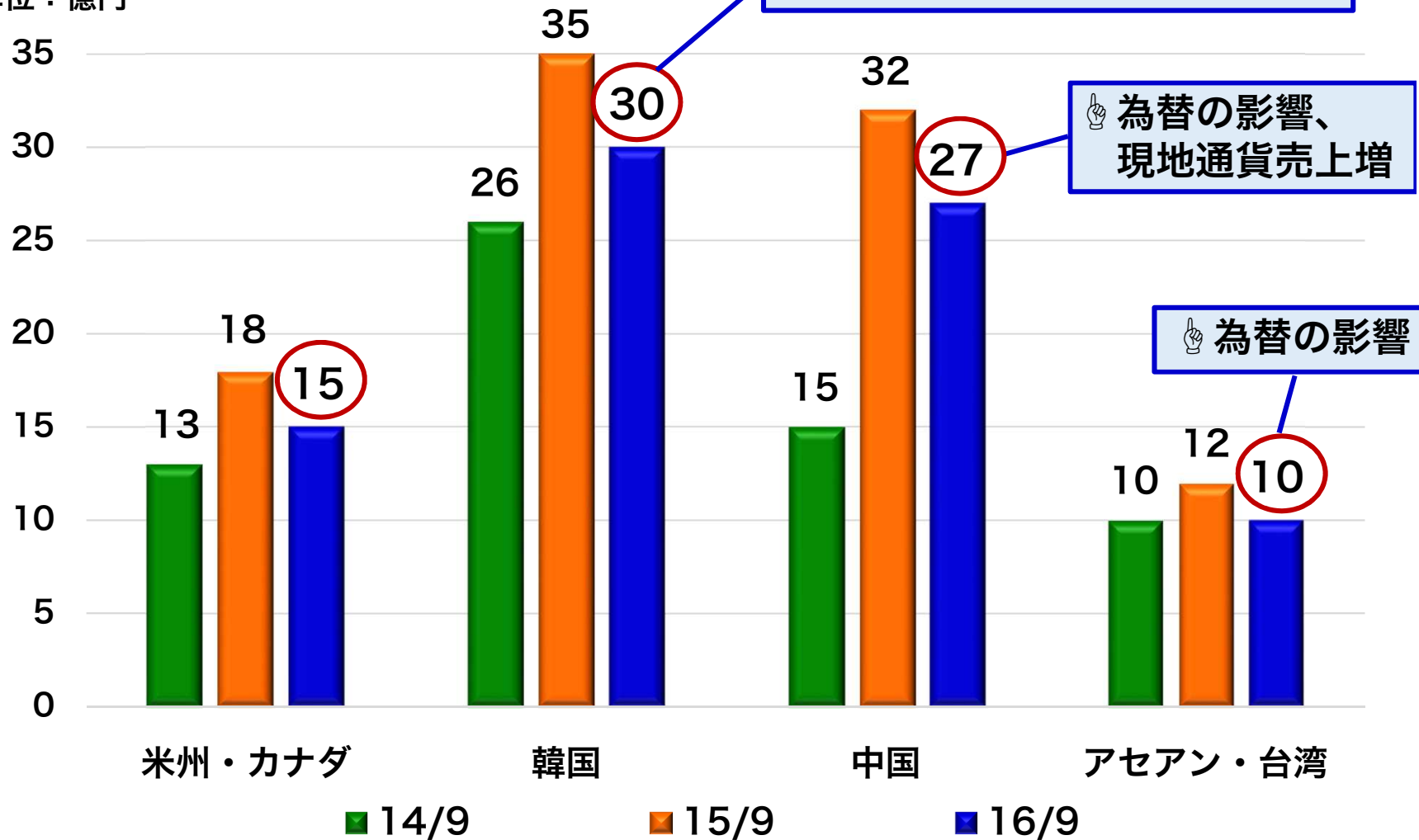
単位：億円



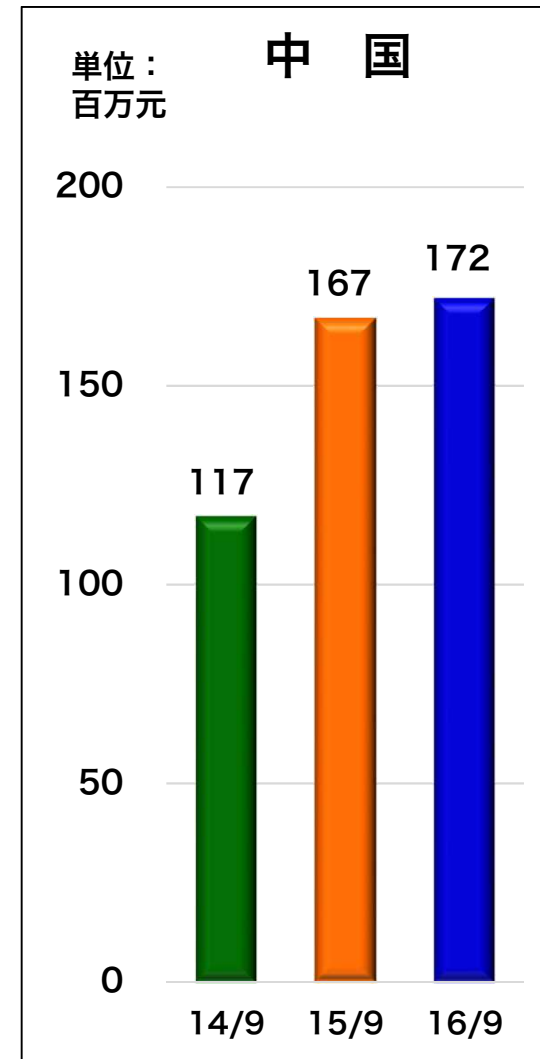
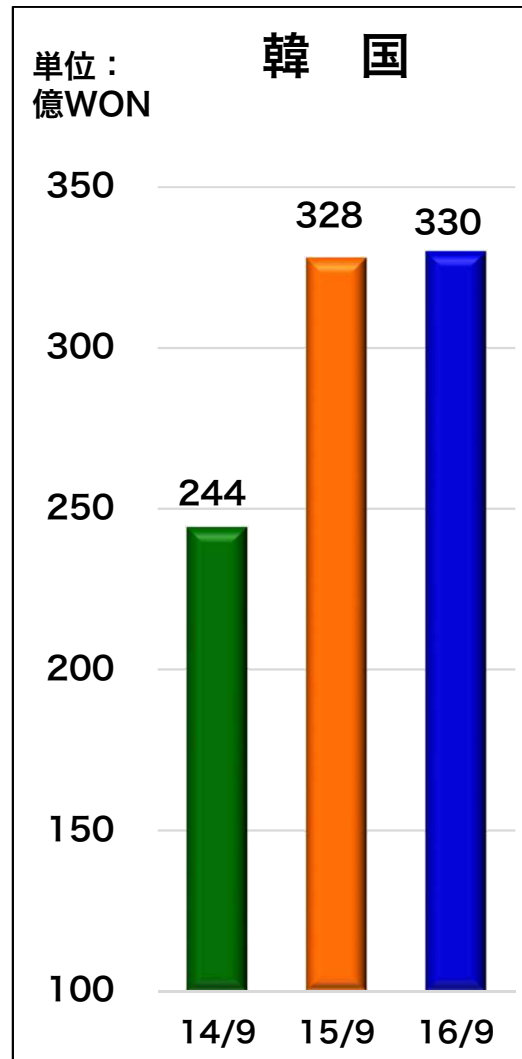
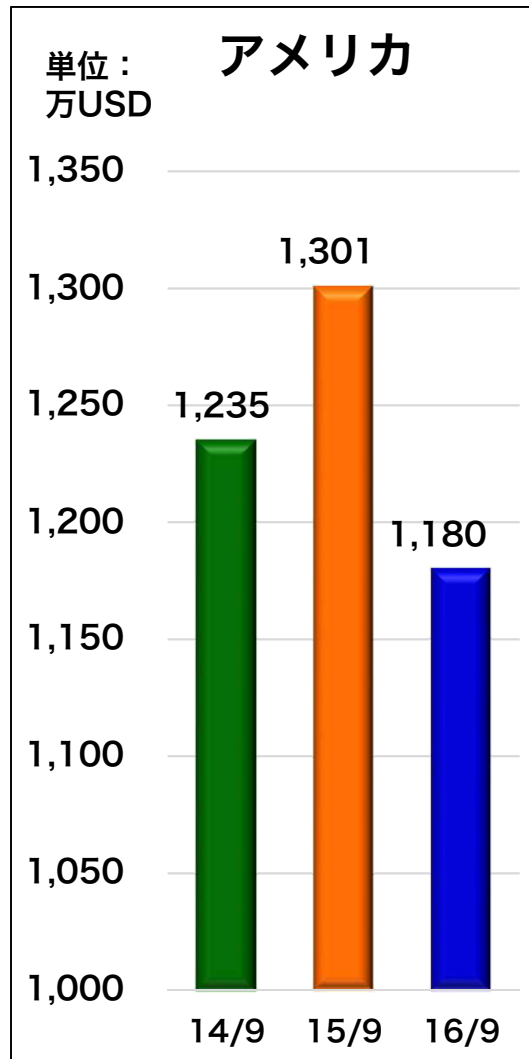
為替（平均レート）	2015年度	2016年度	2016年度計画レート
USD	121.87	105.20	105.00
CAD	96.12	81.10	85.00
元	19.45	15.92	16.00
WON（100W）	10.77	9.22	9.50
ルピア（100Rp）	0.91	0.80	0.80
台湾ドル	3.89	3.28	3.50

海外売上の分析（円ベース）

単位：億円

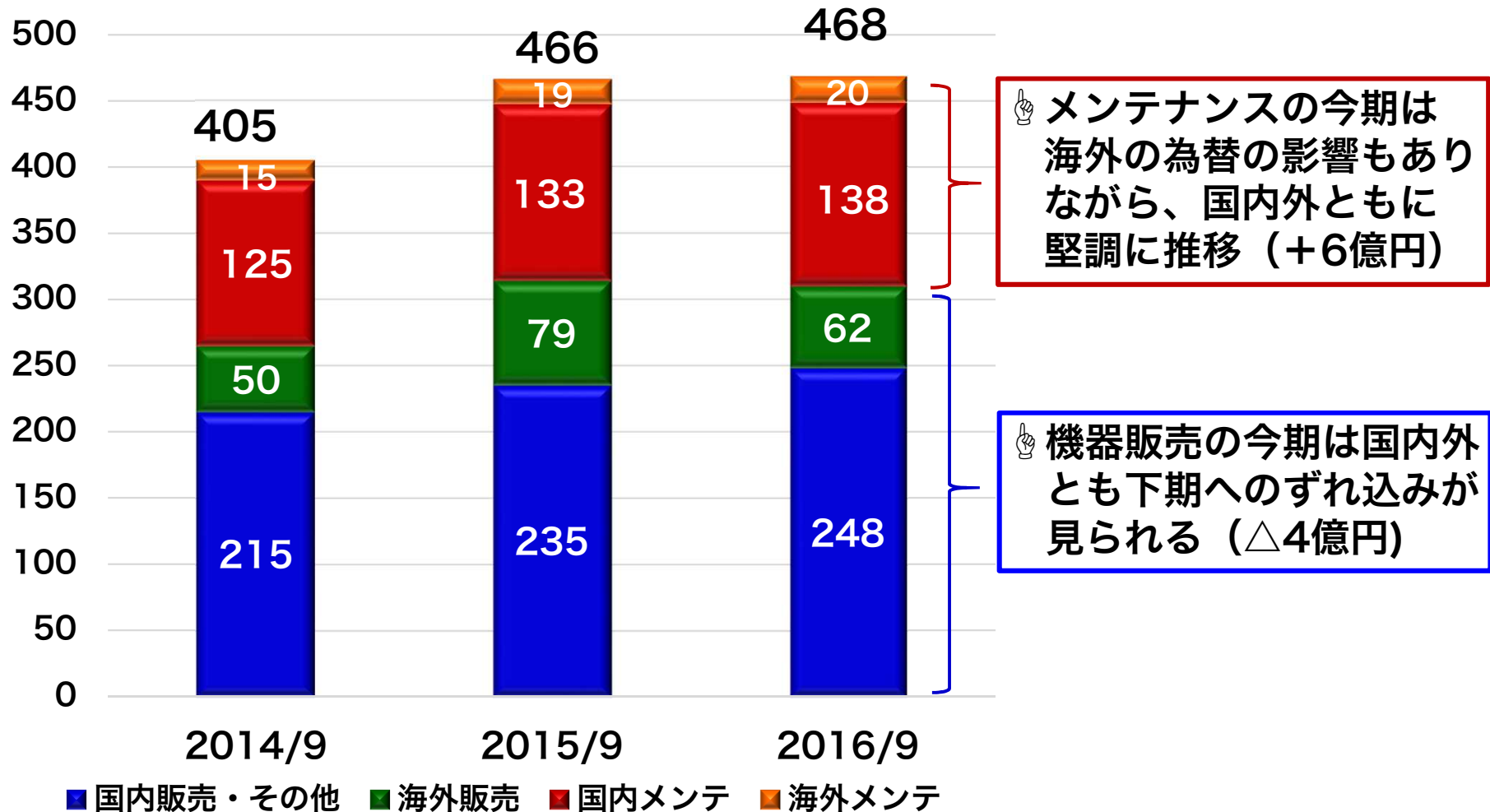


主な海外売上の状況（現地通貨ベース）



セグメント別推移

単位：億円



3. 利益配分、株式の状況

3 利益配分、株式の状況

① 安定的な配当の継続

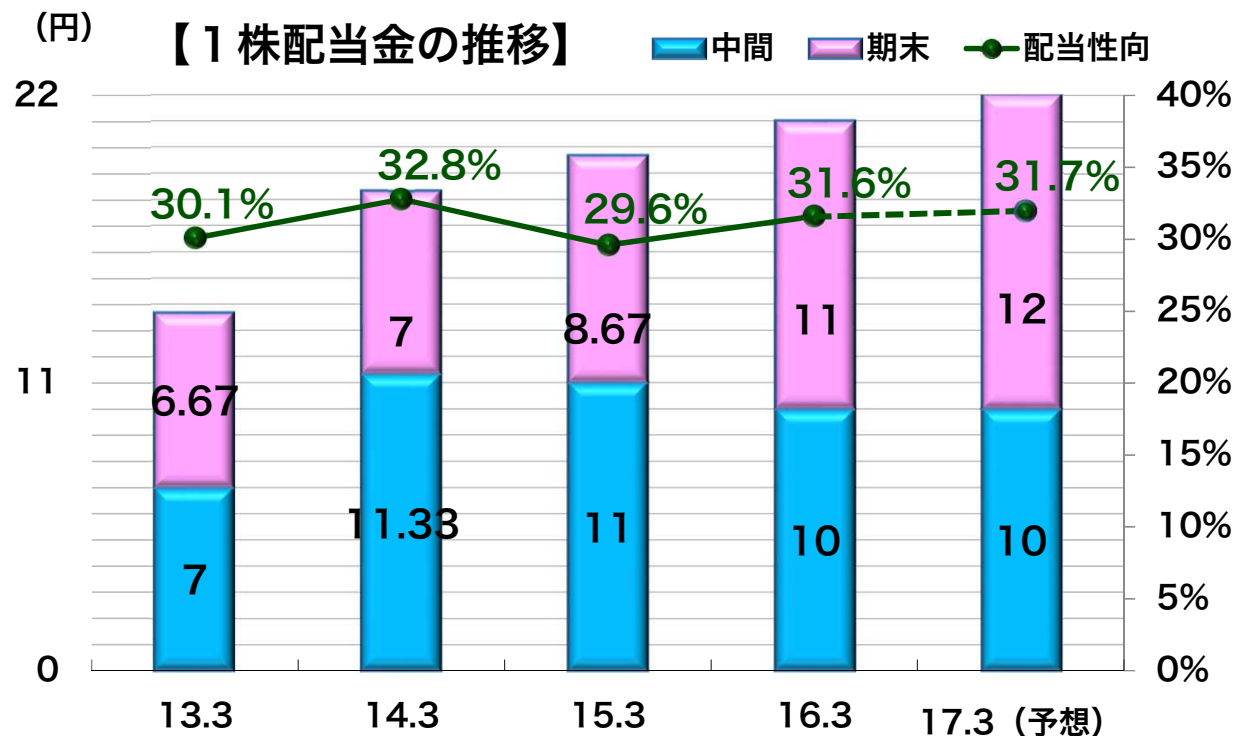
② 連結配当性向30%を目処

16年3月期

中間 10円
期末 11円
合計 21円

17年3月期

中間 10円
期末 12円 (予想)
合計 22円 を予想



(ご参考)

自己株式の保有状況

※ 平成28年9月30日時点

・ 発行済株式総数
(自己株式除く)
112,546,778株

・ 自己株式数
12,744,334株

4. バラスト水処理装置

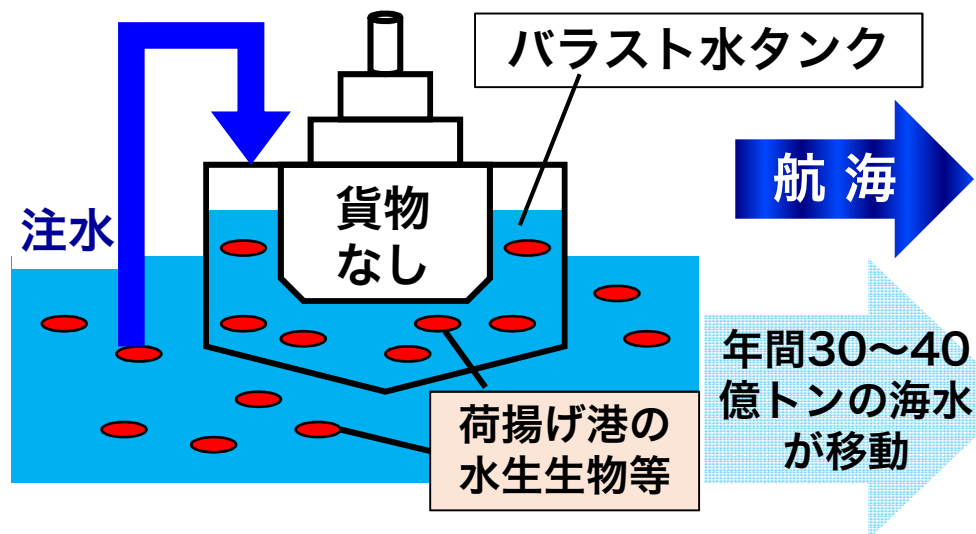
熱・水・環境のベストパートナー



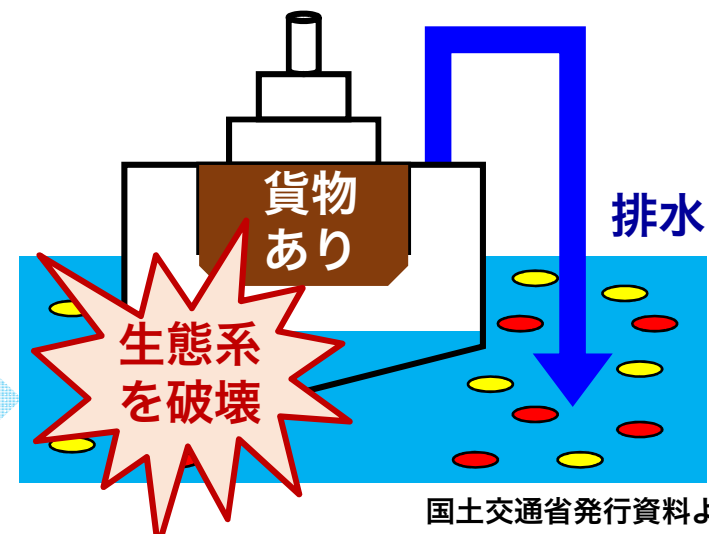
バラスト水管理条約

バラスト水とは、荷物を積んでいない船を安定させるために、船内のタンクへ取り込まれる海水のことをいう

荷揚げ港



積み荷港



「荷揚げ港」から
「積み荷港」への
水生生物等
の移動

生態系破壊
などの
環境問題

2016年9月8日に批准、その1年後
2017年9月8日に発効とIMO発表！

2004年
バラスト水管理条約を採択

IMO国際海事機関加盟国約170ヶ国が採択

市場規模と売上目標

＜市場規模＞ 世界の隻数 8万～10万隻

＜ミウラのターゲット＞
19,000隻（2～6万DWT※の小・中型船）

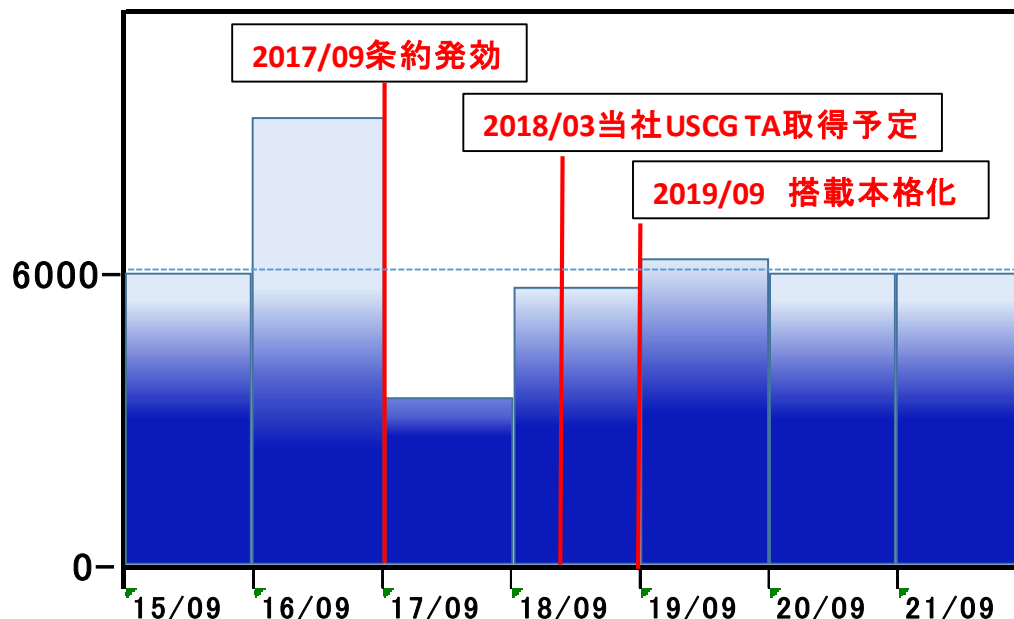
※DWT：最大積載量の重量（Dead Weight Tonnage）

＜2018年度の計画＞

処理装置取付 720台

売上予想額 100億円

就航船のドックイン予定



・Scheduled Dockingは2～3年ごとの中間検査と5年ごとの定期検査がドックインのタイミングです。

新しい市場
の誕生



バラスト水処理装置搭載時期

新造船	2017年9月以降完成
就航船	2017年9月以降定期検査時

バラスト水処理方式

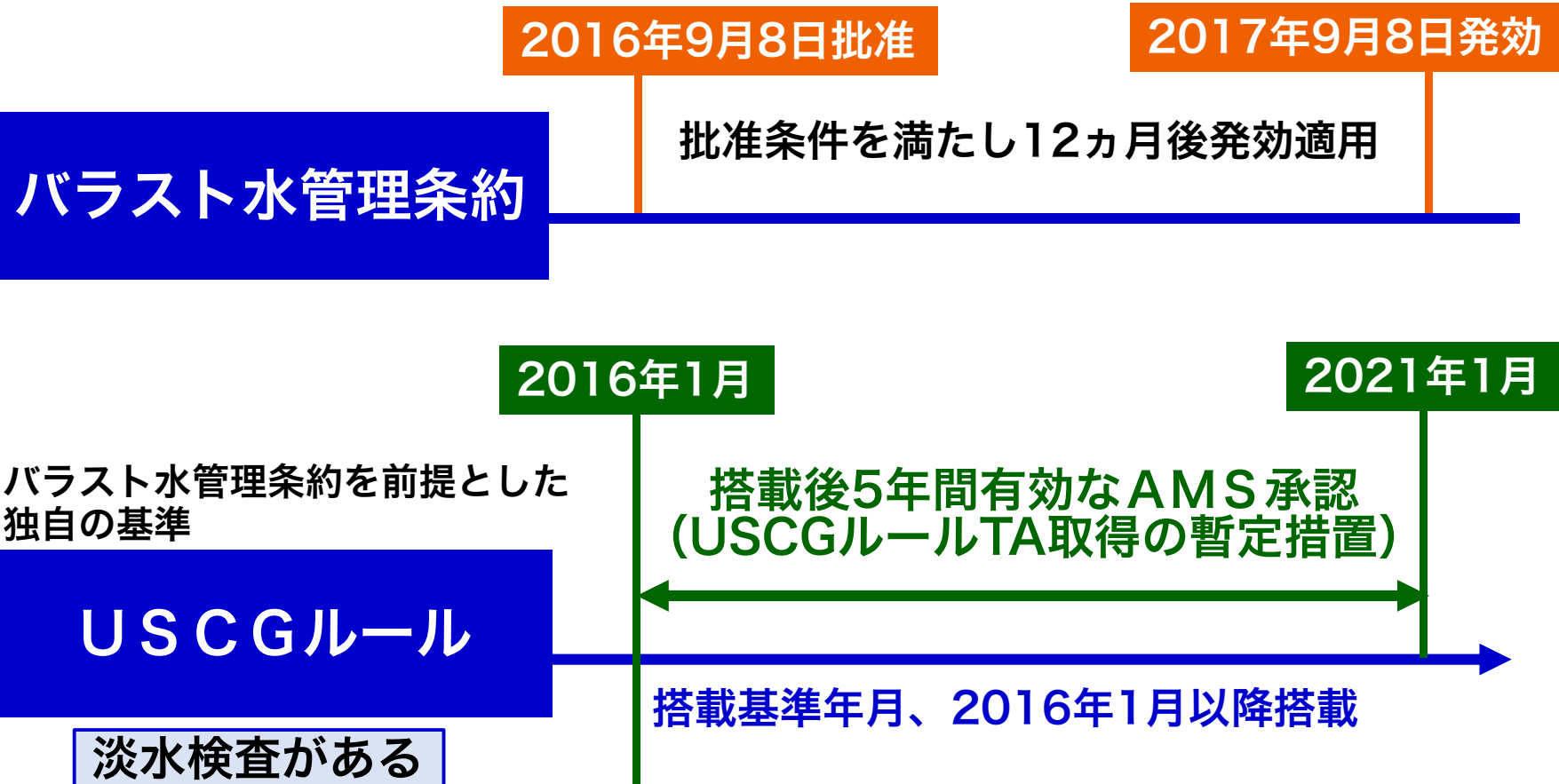
方法	原理	長所	短所
UV	紫外線により殺滅	・薬品不要 ・海水、汽水に左右されない	・大きいサイズの生物は殺滅が困難 ・消費電力大
電気分解	海水電気分解にて発生した塩素にて殺滅	・フィルタ不要な場合あり	・排水時に中和用薬品必要 ・消費電力大 ・温度管理が必要 ・淡水域では、塩素が発生しない
薬品	薬品による殺滅	・消費電力が少ない	・排水時に中和用薬品必要 ・薬品の追加搭載、温度管理が必要 ・薬品による環境負荷が大きくなる可能性

バラスト条約とUSCGルール

USCG (アメリカ沿岸警備隊) ルールとは

北米水域に入航する船舶はバラスト水管理を要求

→バラスト水管理条約が発効しなくても2016年1月より米国においては適用

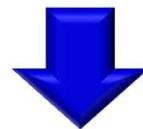


※ TA=Type approval 型式承認

USCGのTAを取得する目的

	北米海域以外	北米海域
IMO	○	—
USCG	—	○

世界中の港に入港する船は、IMOとUSCGの両方のTAが必要



$$\boxed{\text{IMO}} + \boxed{\text{USCG}} = \boxed{\text{船主の安心}}$$

2つの型式認証を取得したメーカー



競争力強化

2016年10月末現在、USCGの型式認証を取得したメーカーは存在しない

主要メーカー

	IMO	処理方法
日本	三浦工業	フィルタ+UV
	JFE	フィルタ+薬品
	クラレ	フィルタ+薬品
韓国	テクロス	フィルタ+薬品+海水電解
	パナシア	フィルタ+UV
中国	青島	フィルタ+電気触媒
	サンルイ	フィルタ+電気分解
	ヘッドウェイ	フィルタ+電気触媒
	ビースカイ	フィルタ+UV
欧州	アルファラバル	フィルタ+UV
	オプティマリン	フィルタ+UV
	オーシャンセーバー	フィルタ+薬品+海水電解

IMOによる最終承認済TOTAL 69社 ※上記社を含む（2016年10月28日現在）

当社のバラスト関連の認証取得状況

バラスト水管理条約

2014年3月に取得した「バラスト水管理システム施工前試験合格証明書」に変わり、2016年4月国内法改正に基づく主官庁の「相当指定」を取得

USCGルール

2017年度中に取得予定

2016年1月より、北米海域に入航する船舶はバラスト水管理が要求され、その基準はバラスト水管理条約を一時的に適用したもの。AMS承認取得した機器が必須

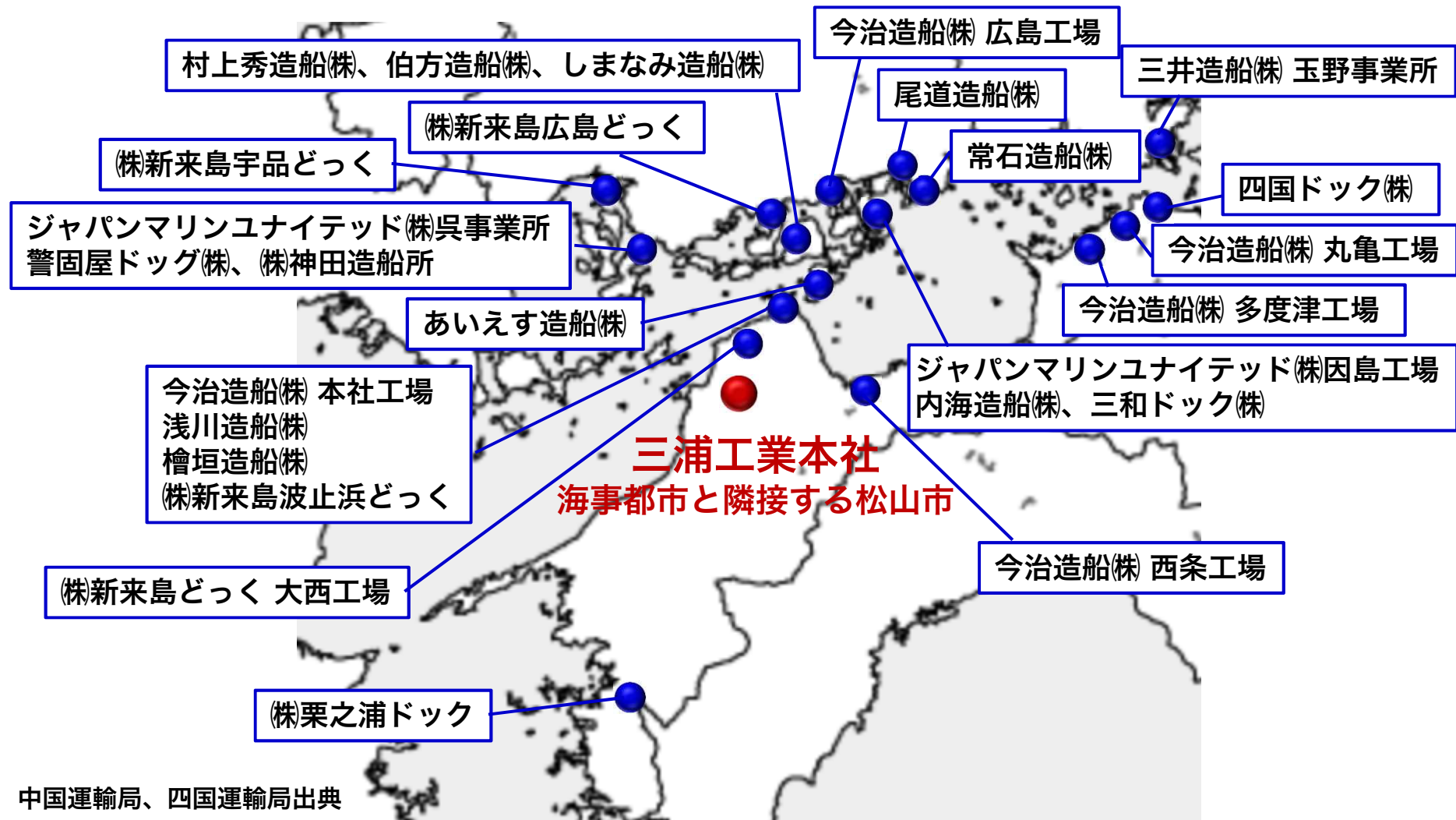
5年間有効なAMS承認（USCGルールTA取得の暫定措置）

2014年11月（海水・汽水）、2016年3月（淡水）承認取得
→ AMS承認を取得していた場合、TA未取得でも、搭載後5年間はUSCG指定海域内であらゆる水域で対応可能

TA=Type approval 型式承認

世界に誇る海事都市

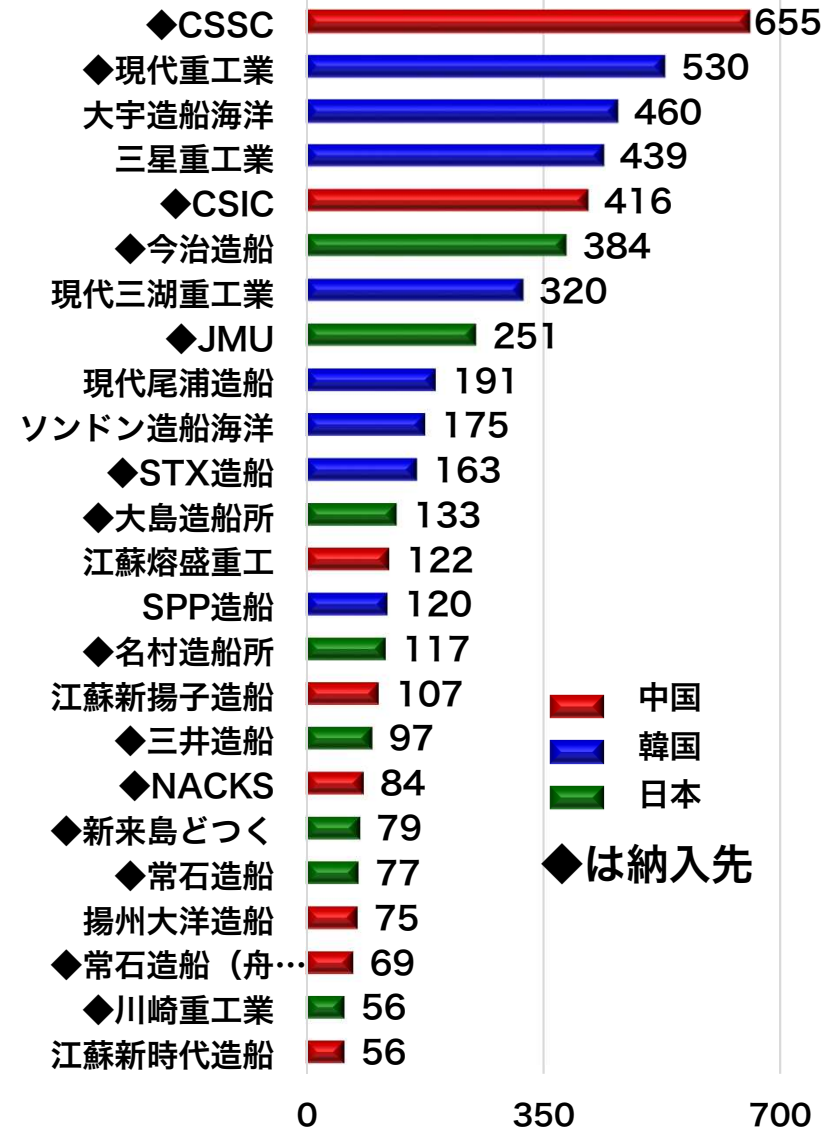
船用事業部は事業開始から約50年の実績、近隣海事都市と共に成長



主要納入先

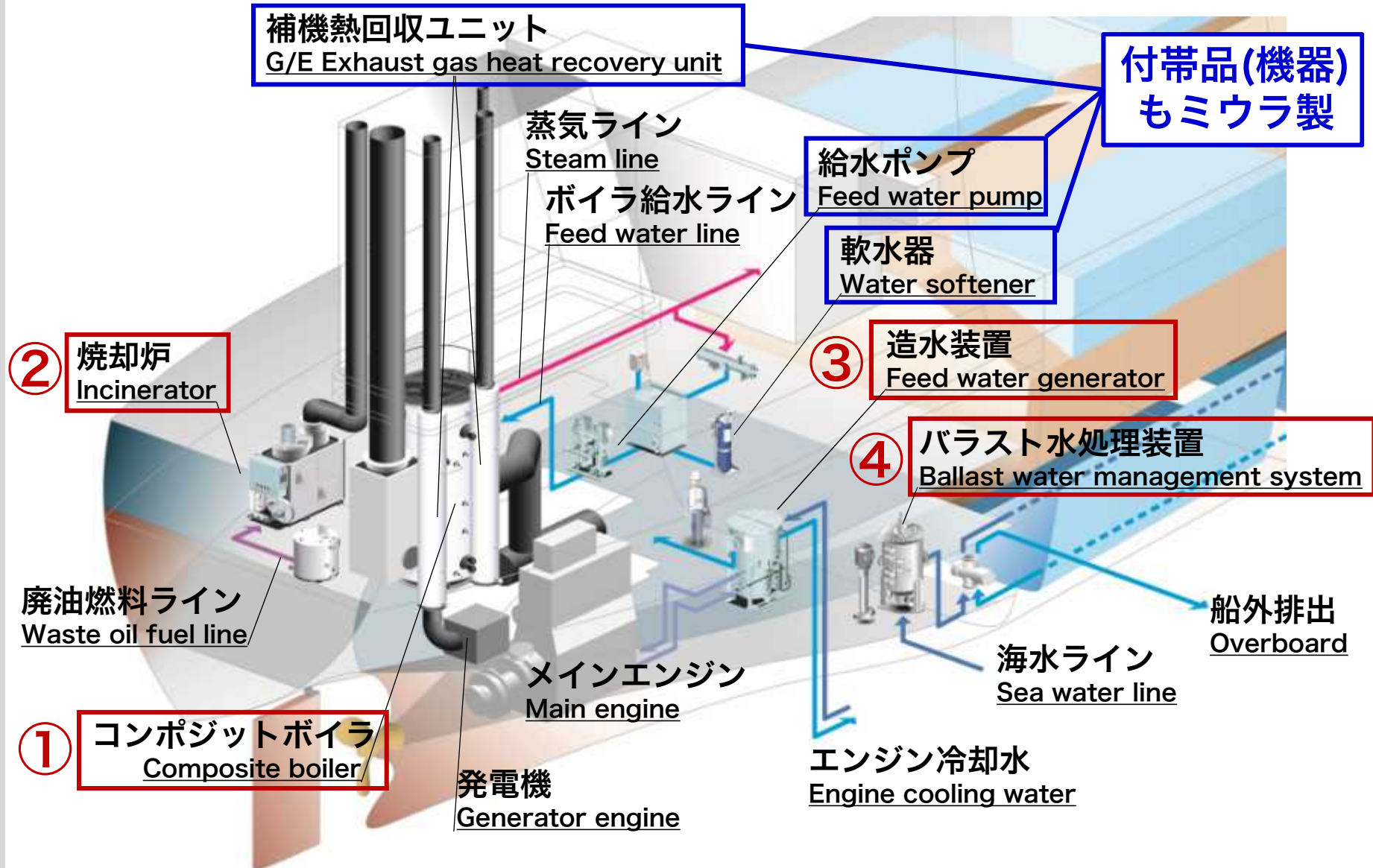
	納入先
日本	今治造船 ジャパンマリンユナイテッド(JMU) 大島造船所、常石造船、名村造船所 新来島どっくグループ、三井造船 川崎重工業、三菱重工業
中国	COSCO GROUP、CSIC GROUP CSSC GROUP NANTONG COSCO KH SHIP ENGINEERING CO.,LTD. (NACKS)
韓国	DAE SUN SHIPBUILDING &ENGINEERING CO.,LTD. 現代重工業 HANJIN HEAVY INDUSTRIES & CONSTRUCTION CO.,LTD. STX OFFSHORE & SHIPBUILDING CO.,LTD.

世界の建造量ランキング (2013年)



※合併等でランキングの順位が変更している場合があります。 出典：IHS(旧ロバ) 万総トン

シブトータルソリューション（ミウラの4点セット）



ターゲット

就航船

7%シェア
約1,330隻

×1.5台 = 約**2,000台**のバラスト水処理装置



2,000台を5年間で搭載していく

新造船

目標32%
シェア

現在の取引造船所への機器搭載台数年間約1,000台
 $1,000台 \times 0.32 = 320台$

2018年度

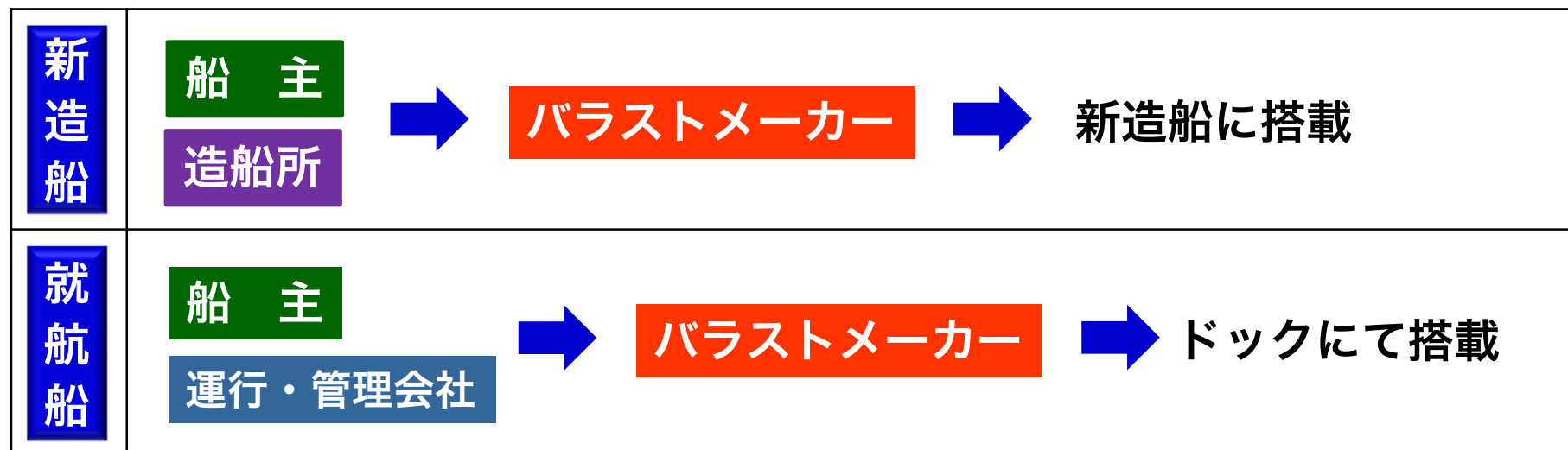
- ・ 就航船向け 400 台／年
+
- ・ 新造船向け 320 台／年
= 720 台



売上目標
100億円

営業戦略

新造船	就航船
<u>船用ボイラのルートで営業</u> → ボイラのユーザ（造船所と船主）との強固な信頼関係	<u>船主、運行・管理会社へ営業</u> → 欧州の多くの船主へ営業のため、オランダへ拠点展開



欧州の船主へ欧州拠点から営業



オランダ法人設立

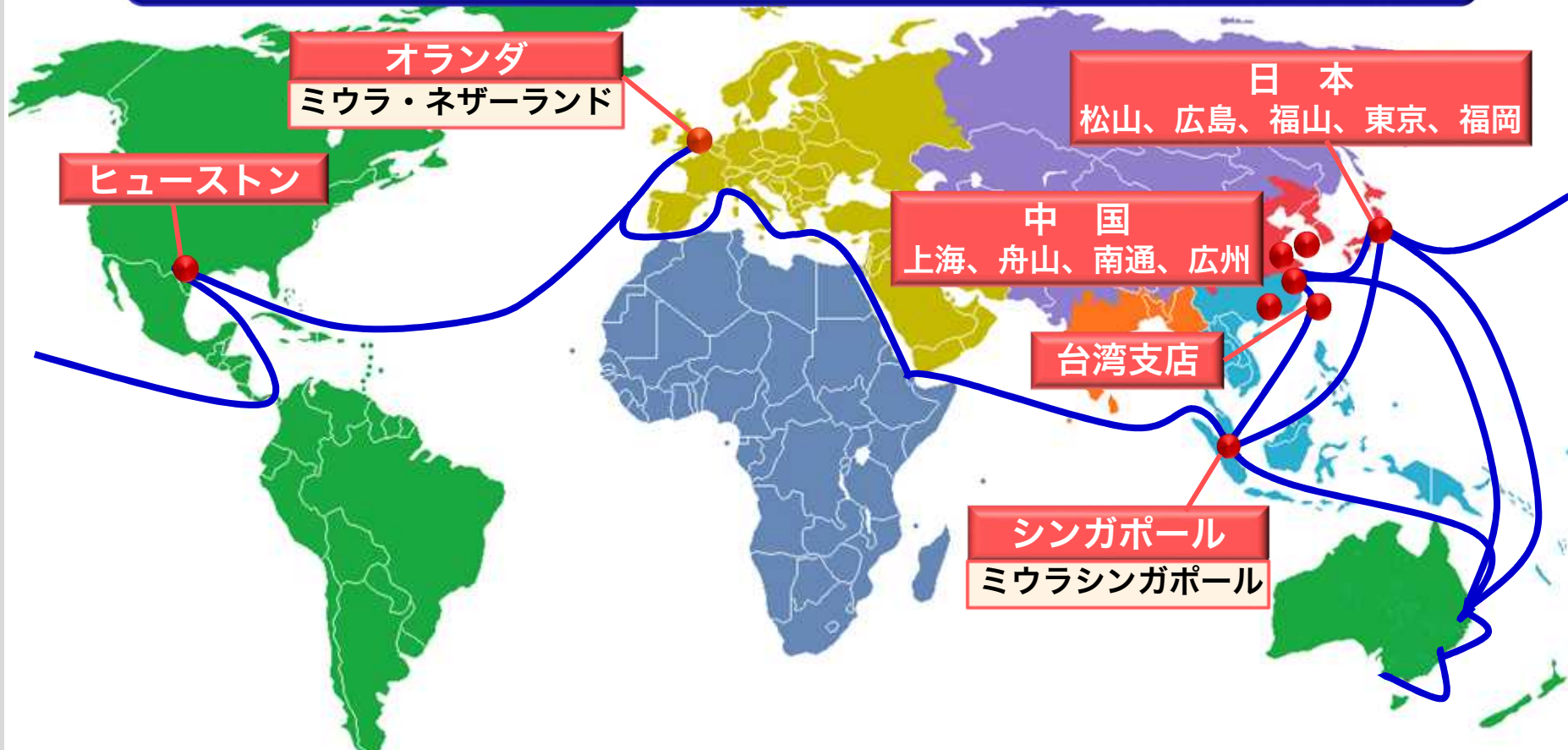
中国の造船業へアジア拠点から営業



アジア拠点展開

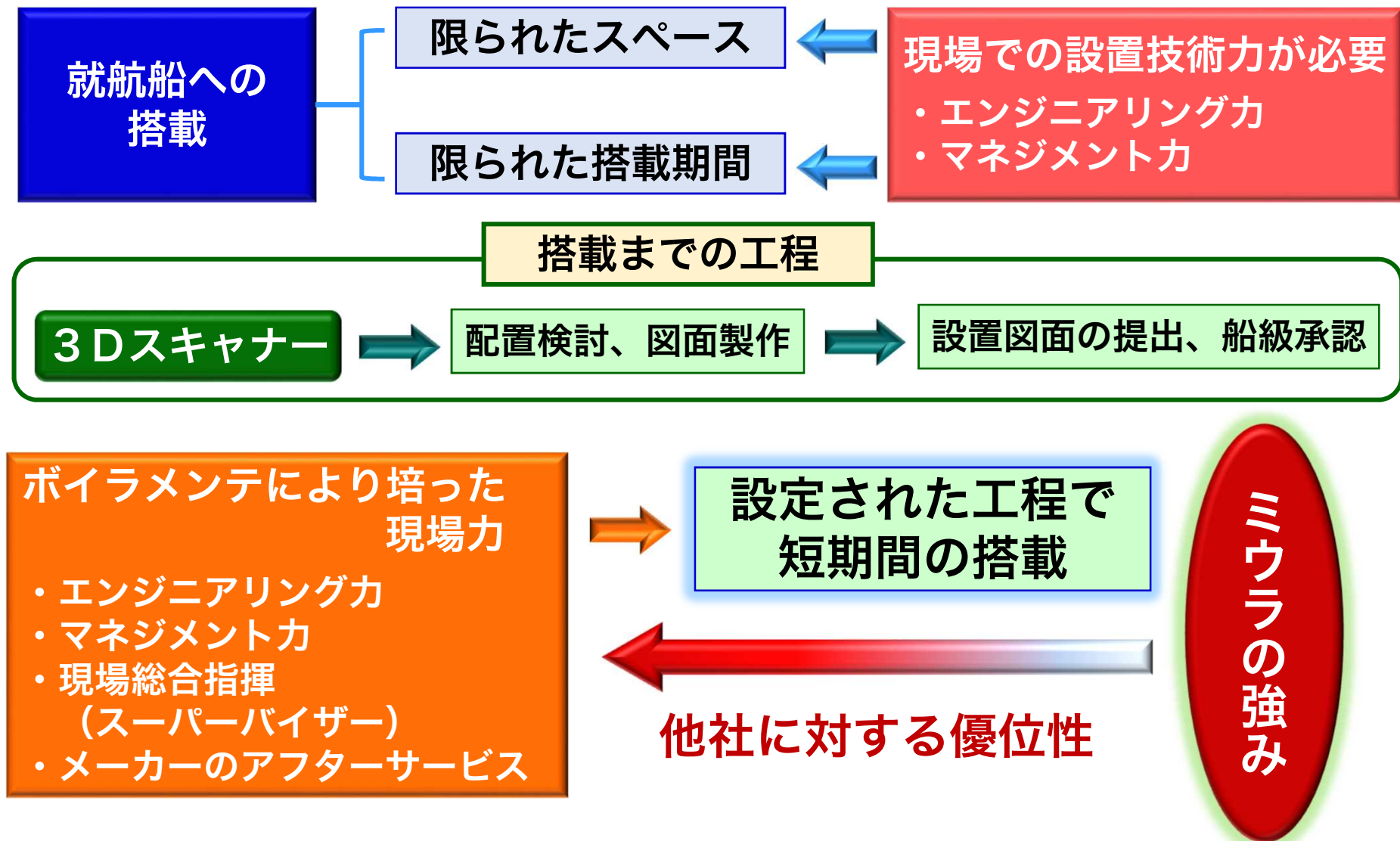
船舶メンテナンス網の構築

バラスト水処理装置の搭載やメンテナンスは、世界各国での需要予想に対し、メンテナンス網を配備



既存拠点：日本国内5拠点、シンガポール、オランダ、台湾、中国4拠点、ヒューストン

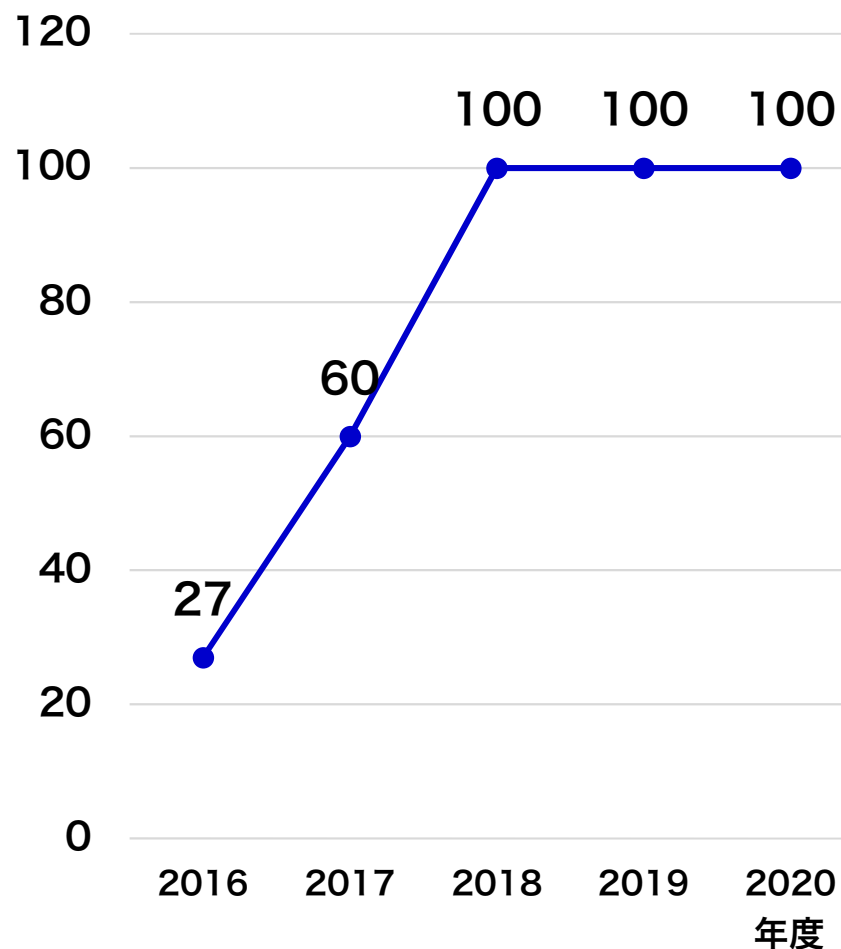
設置技術



売上のピークとその後の予想

単位：
億円

バラスト売上予想



メンテナンスに関する売上

ドックイン時に点検、メンテナンス

ドック入りのサイクル

就航

2.5年後

5年後

7.5年後

10年後

・ 消耗品交換
・ 運転暦を確認し、
メンテナンス計画
を提案する

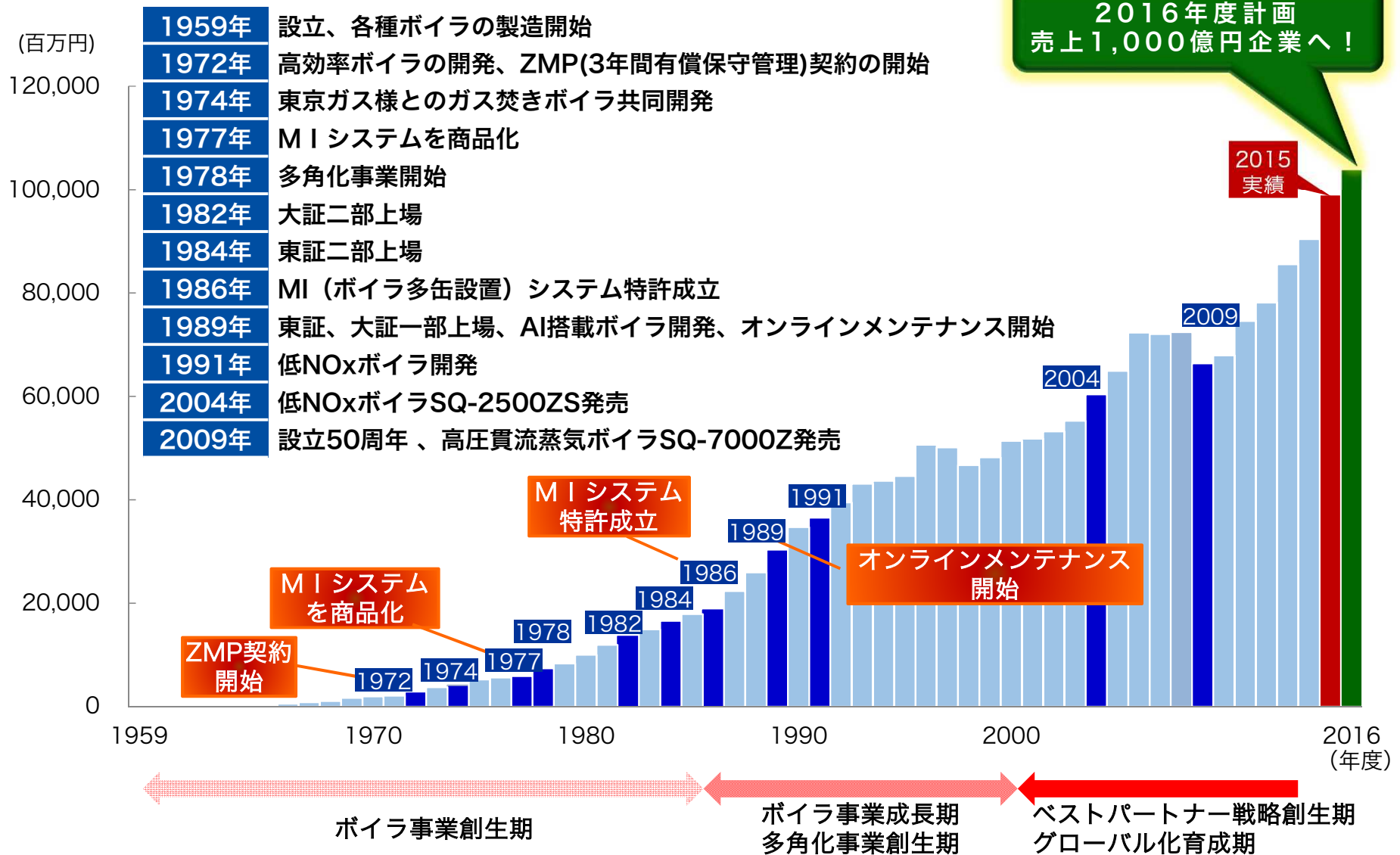
基本的にオーバー
ホールメンテナンス

5. 参考資料

熱・水・環境のベストパートナー

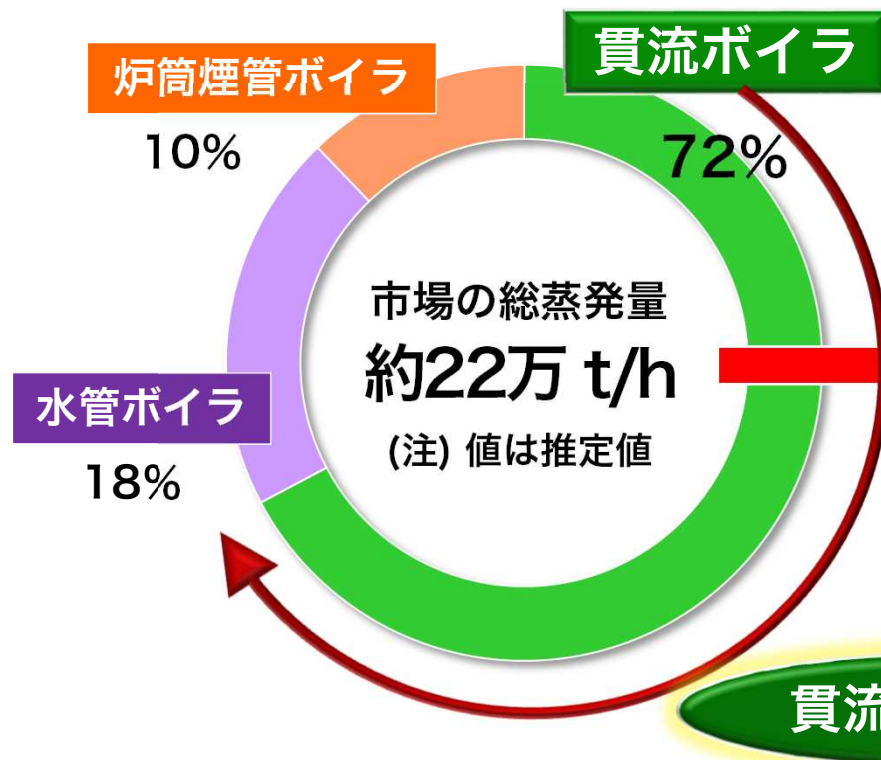


業績の推移、沿革

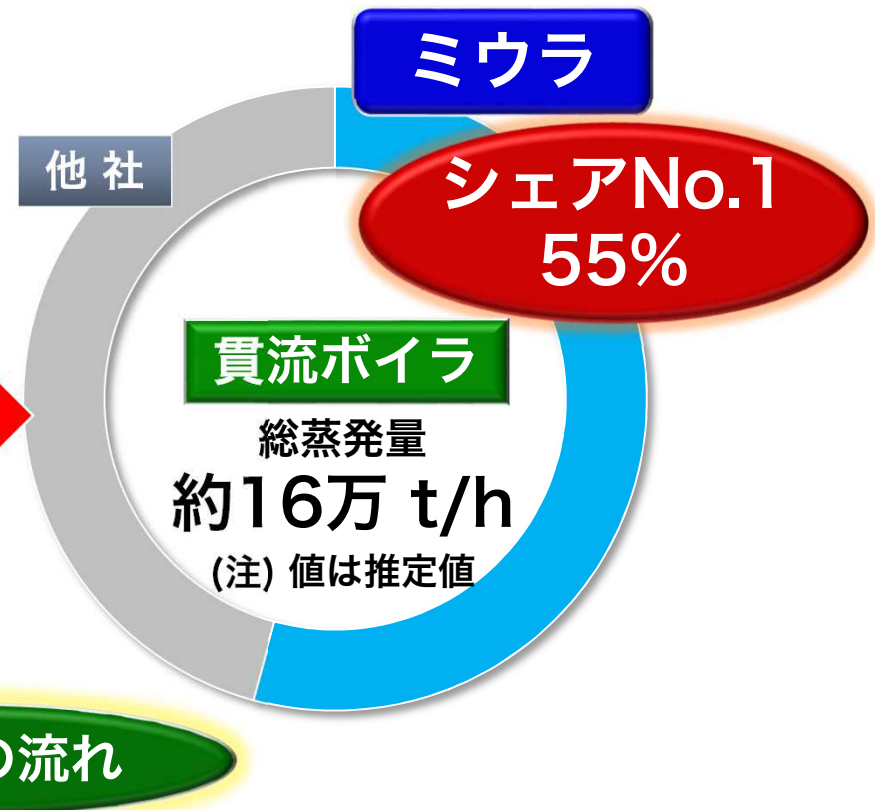


国内の業界シェア ※発電用を除く

国内のボイラ市場



国内の貫流ボイラ市場



主な競合メーカー

(株)日本サーモエナー
(株)サムソン

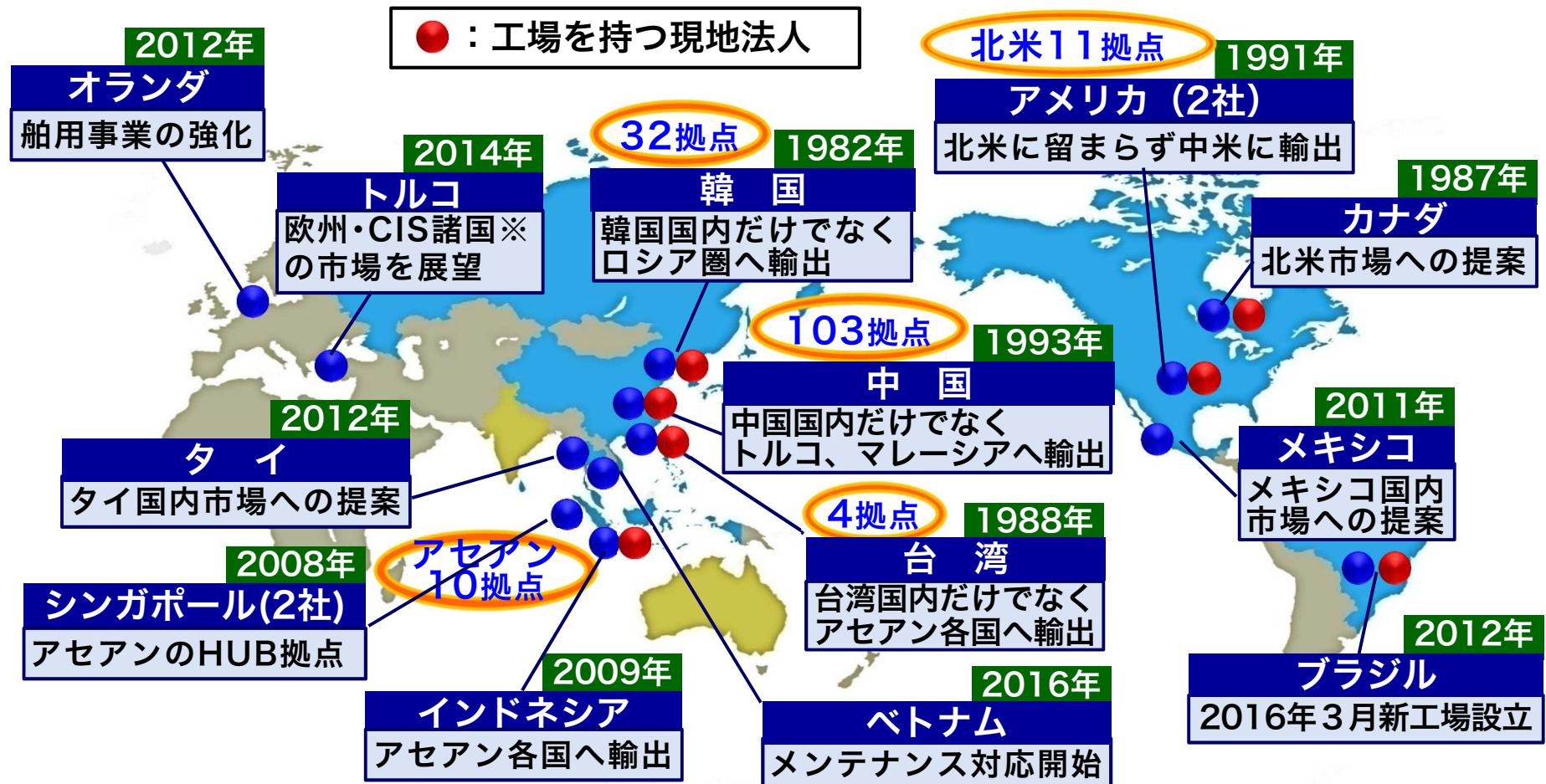
(株)IHI汎用ボイラ
川重冷熱工業(株)

(株)ヒラカワ
(株)よしみね

(注) 貫流ボイラのシェアは、当社の独自調査に基づくものであり、実際の値とは異なる可能性があります。

適地適産適販・グローバル販売網の構築

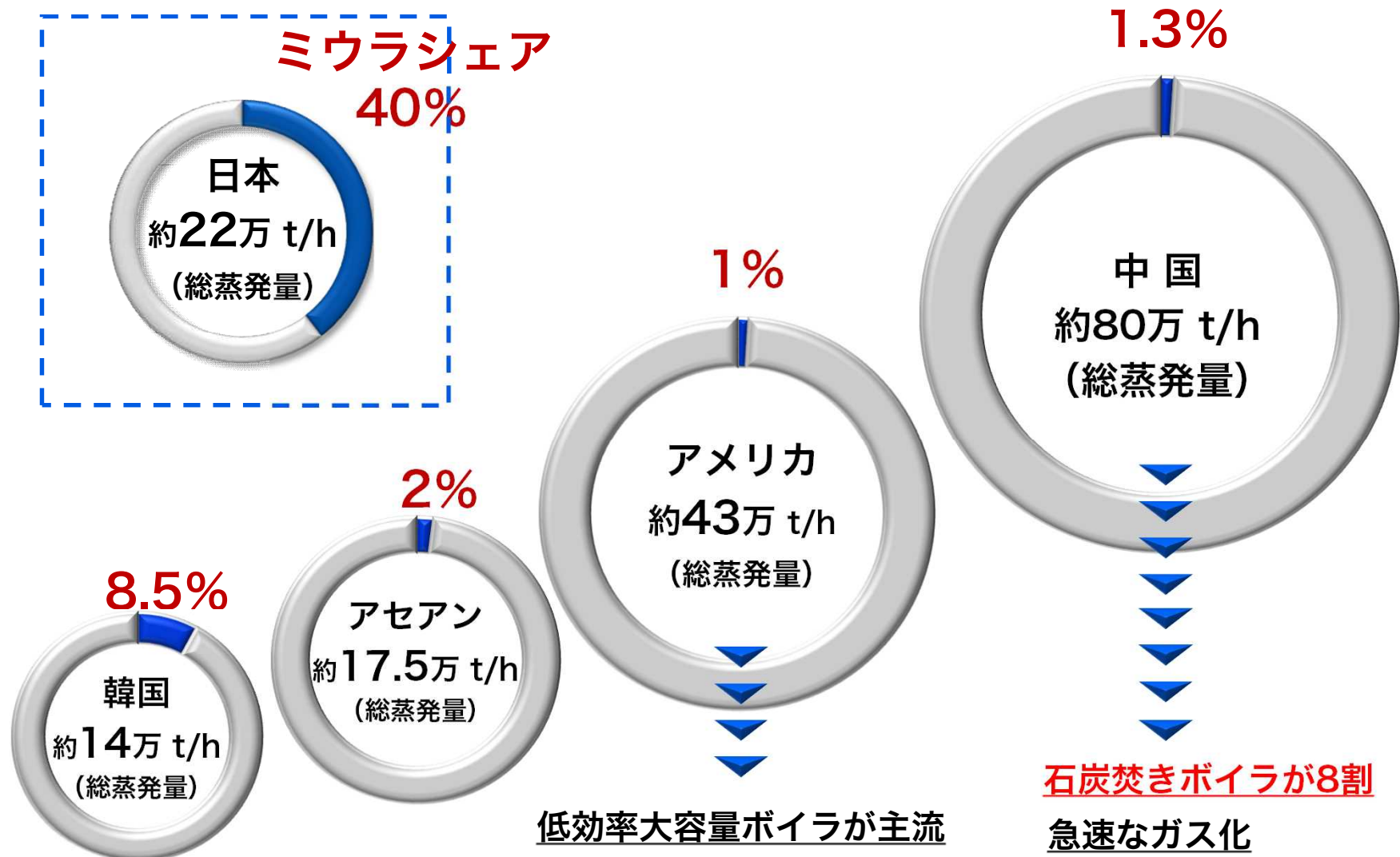
海外15社・7工場・19ヶ国で営業、メンテナンス拠点展開



※CIS諸国：独立国家共同体(Commonwealth of Independent States) アゼルバイジャン・アルメニア・ウズベキスタン・カザフスタン・キルギス・タジギスタン・トルクメニスタン・ベラルーシ・モルドバ・ロシア (トルクメニスタン、モルドバの2国は客員参加国)

ボイラ市場（ミウラの市場占有率）

＊総蒸発量ベース

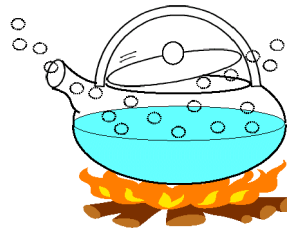
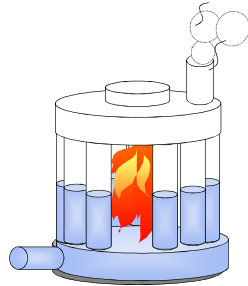


ボイラとは

水を加熱して水蒸気を発生させる装置
工場、学校、病院、高層ビルなどでは
欠かせない設備

用 途 暖房、給湯、加熱、殺菌消毒 等

※ ボイラの原理は「やかん」と同じ



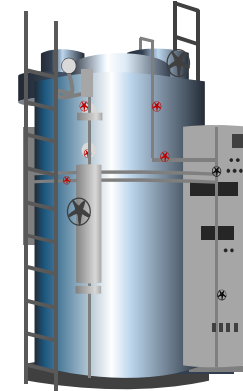
【蒸気のメリット】

- 熱量が高温水の約5倍
- 圧縮が可能
- 原料が水であるため、入手が容易
- 蒸気の熱量が奪われると水に戻るため、再利用が可能
- 原料が水であるため、安全かつ衛生的

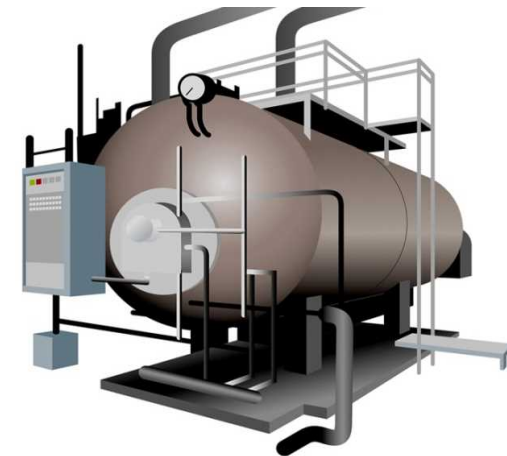
【ボイラの種類 ～ 同容量のボイラ比較 ～】



貫流ボイラ

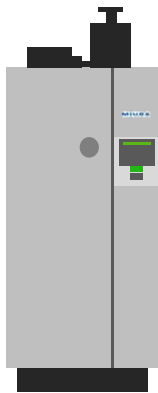


水管ボイラ

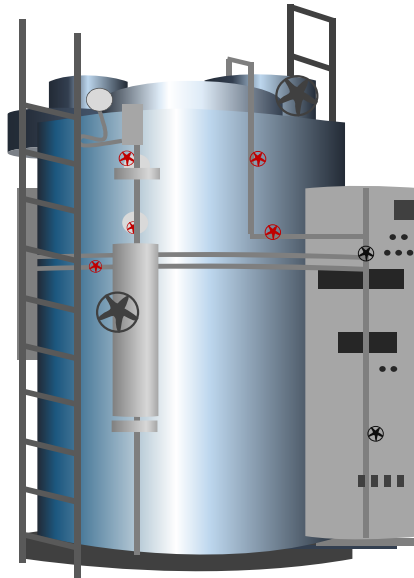


炉筒煙管ボイラ

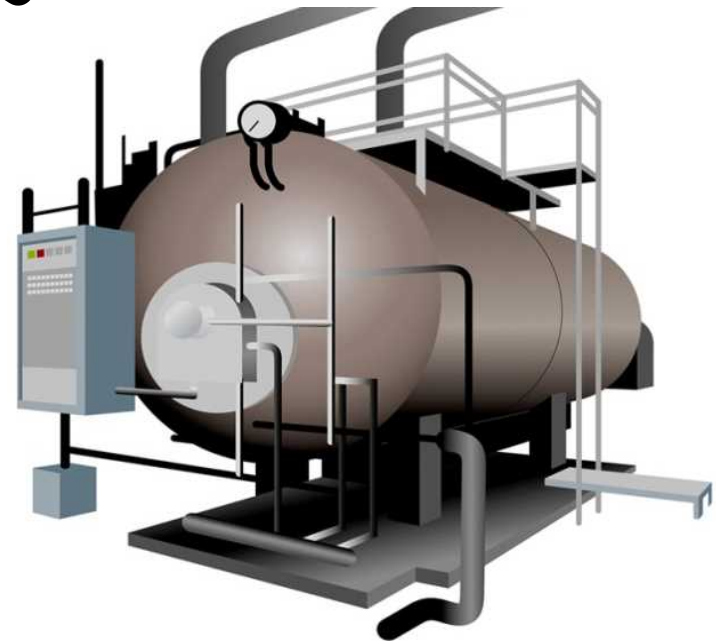
ボイラの種類 ～ 同容量のボイラ比較 ～



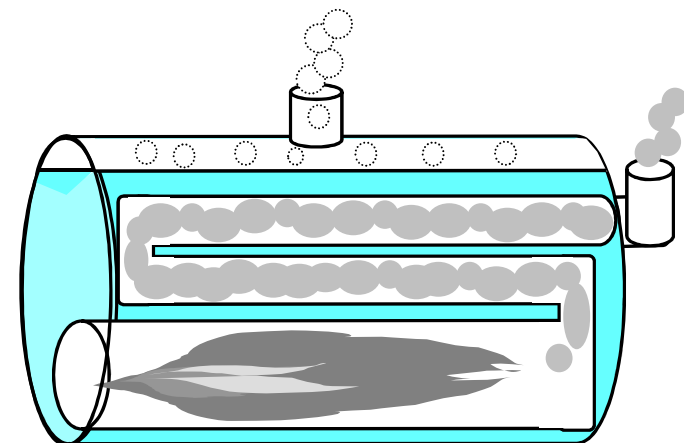
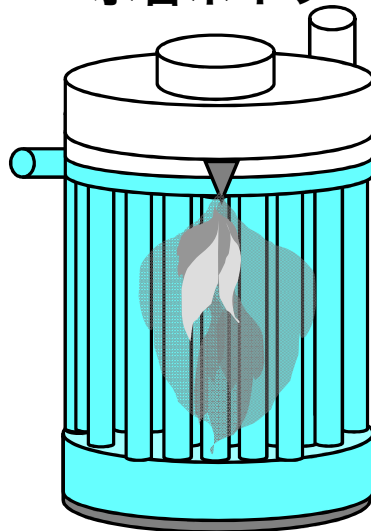
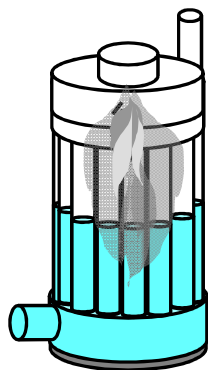
貫流ボイラ



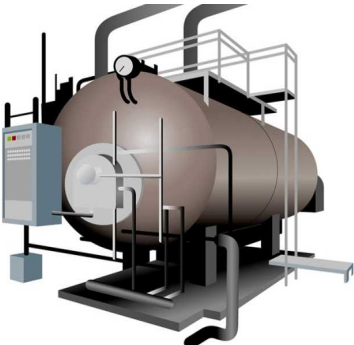
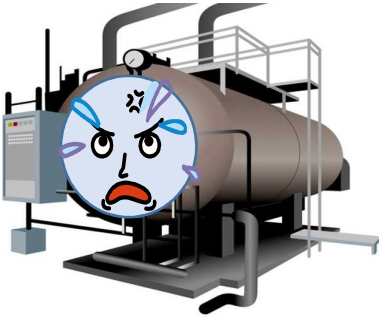
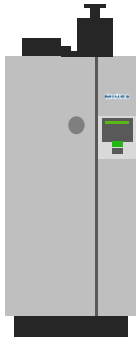
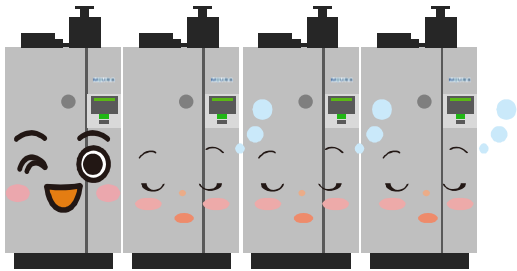
水管ボイラ



炉筒煙管ボイラ



小さなボイラのメリット

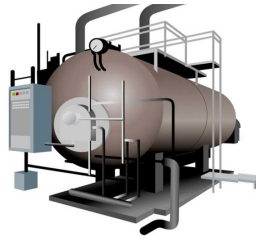
	低負荷時の効率
大きなボイラ	低い
 炉筒煙管ボイラ	 負荷に関係なく稼動
小さなボイラ	高い
 貫流ボイラ	 必要な負荷分だけ稼動

多缶設置は
日本特有の
蒸気システム

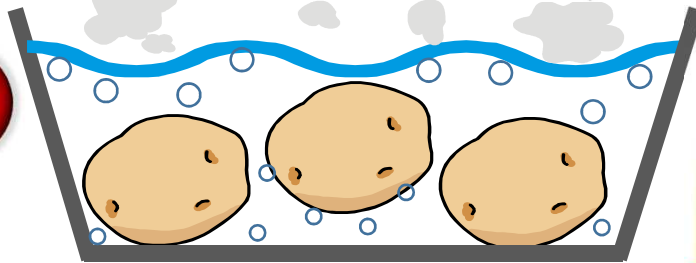
小さなボイラを
たくさん並べる
ことを
多缶設置という

ミウラのMIシステム（Multiple Installation system）とは
必要時に必要なだけの蒸気量を供給し、エネルギーコスト低減やCO₂、
NOx等の排出量削減に繋げる

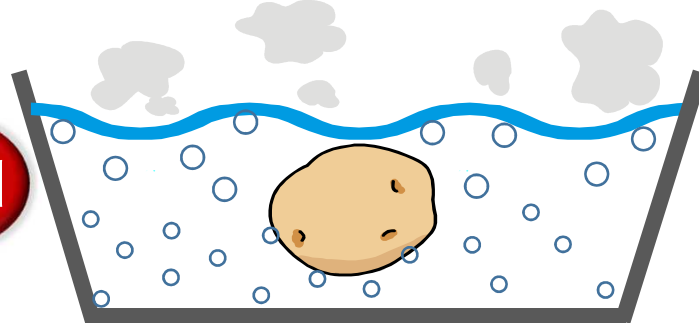
大きなボイラ1台



3個



1個

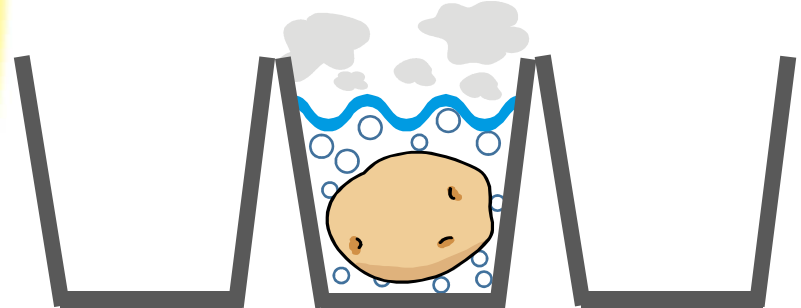
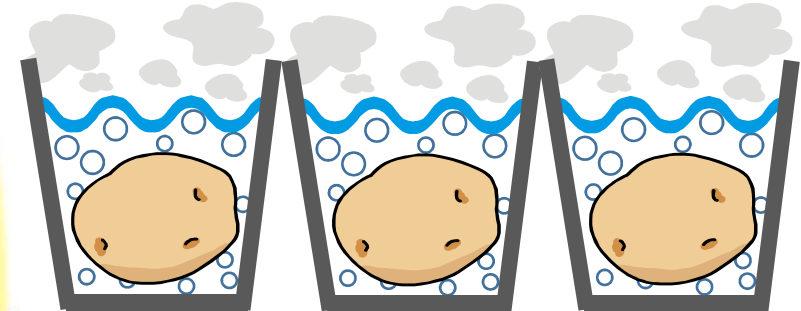
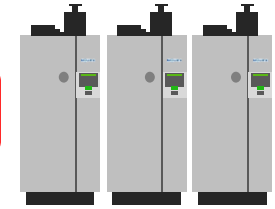


ポテトが減ってもお湯の量は減らない

省エネ化

省スペース化

小さなボイラを複数台



ポテトが減ればお湯の量は少なくなる

省力化

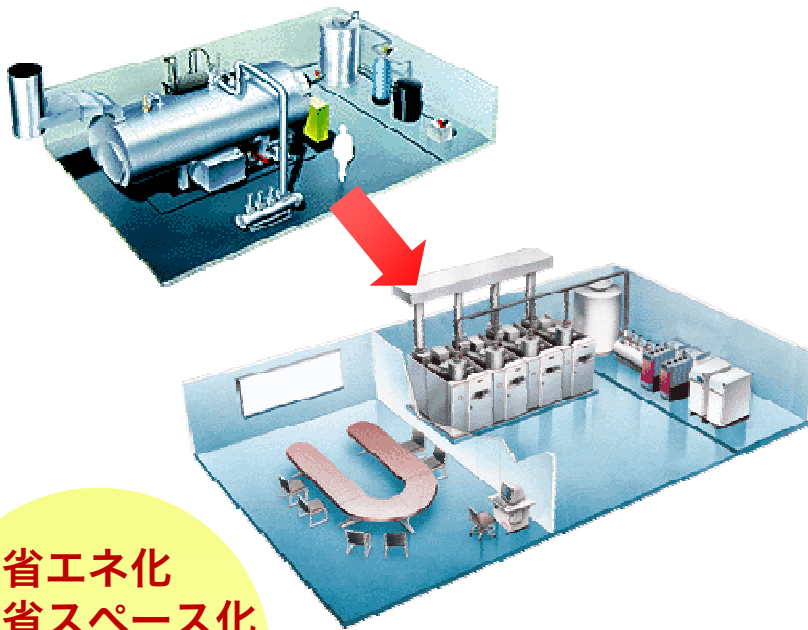
低公害化

なぜMIシステムは
効率的なのか？

1986年 ボイラ多缶設置 (MI) システム特許成立

MIシステム (Multiple Installation system) とは

小型貫流ボイラの特徴を活かした画期的な省エネルギーシステム



- 省エネ化
- 省スペース化
- 省力化
- 低公害化



必要な時に必要なだけの蒸気量を供給し、エネルギーコストの低減やCO₂、NO_x等の排出量削減に繋げる

ZMP 契約とは？

契約期間

3年毎に契約更新



5期15年

契約内容

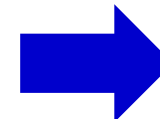
3回／年の点検
交換交換無償

突発故障対応
交換部品無償



異常の察知

故障原因の
事前把握



お客様の
安全安心

早期復旧

水分析

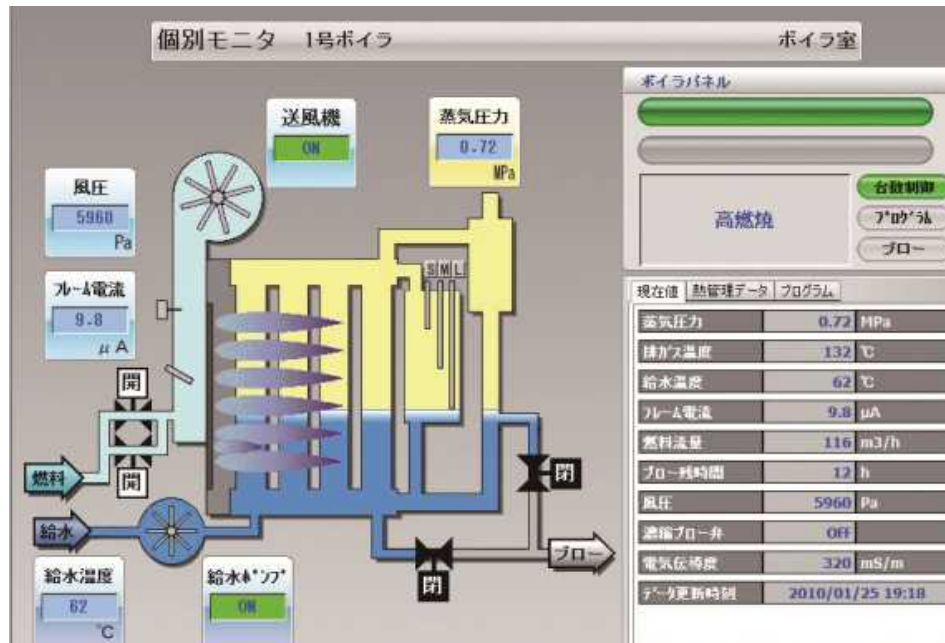


オンラインメンテナンス



オンラインメンテナンス

27年前から「IoT」を活用したハイテクサービスで高い収益性を維持



遠隔監視で状況確認

監視

ユーザー

対処方法を電話連絡
(データ収集・解析)

オンライン管理缶数
約 56,000台
※ボイラ以外の機器も含む
(2016年10月末現在)



出向

現場に行かない

故障の原因がわかる

事前準備出来る

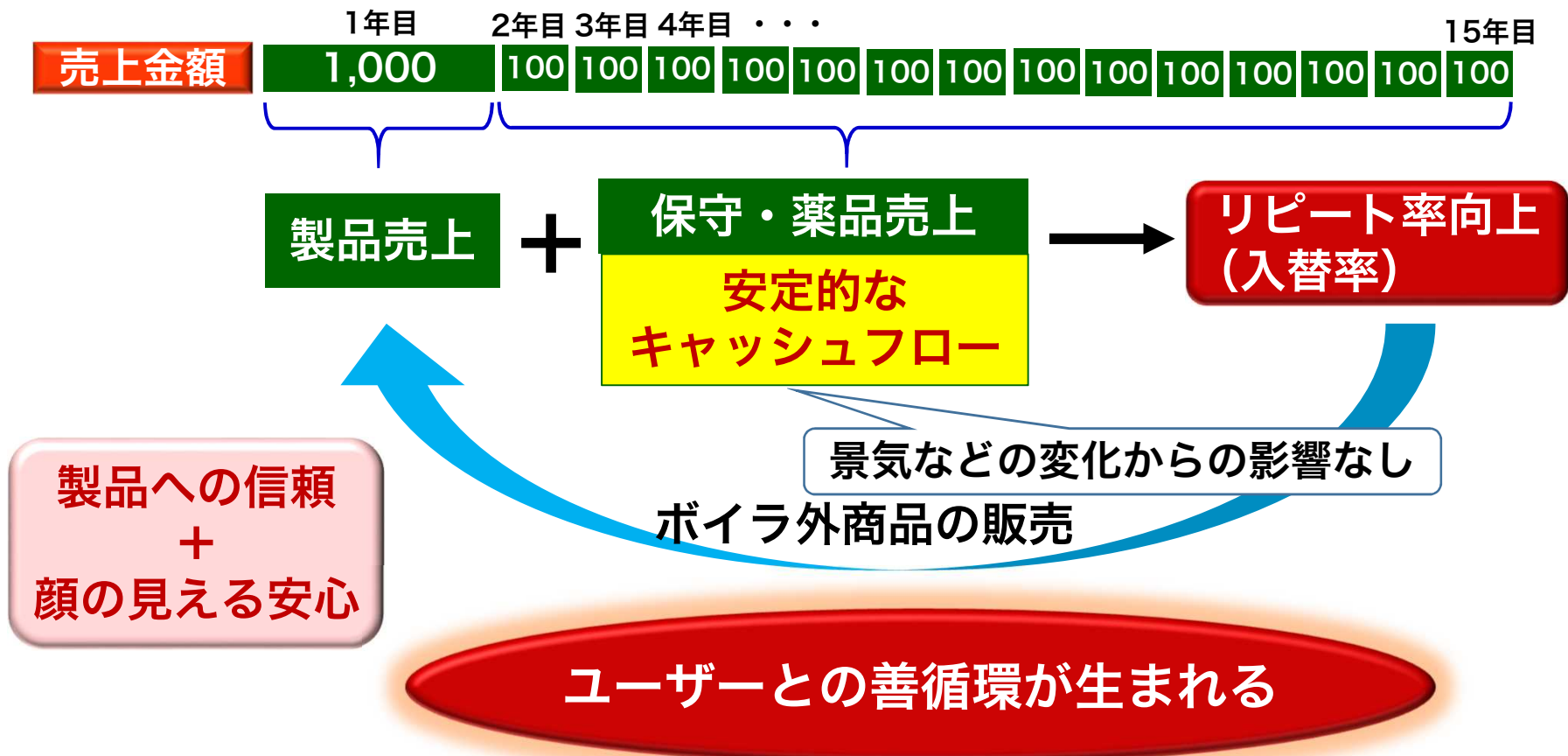
早期回復

1人当りの管理缶数の増加、効率的メンテ、
メンテナンス員を3K（危険・汚い・きつい）から解放

ボイラのライフサイクルとミウラのビジネスモデル

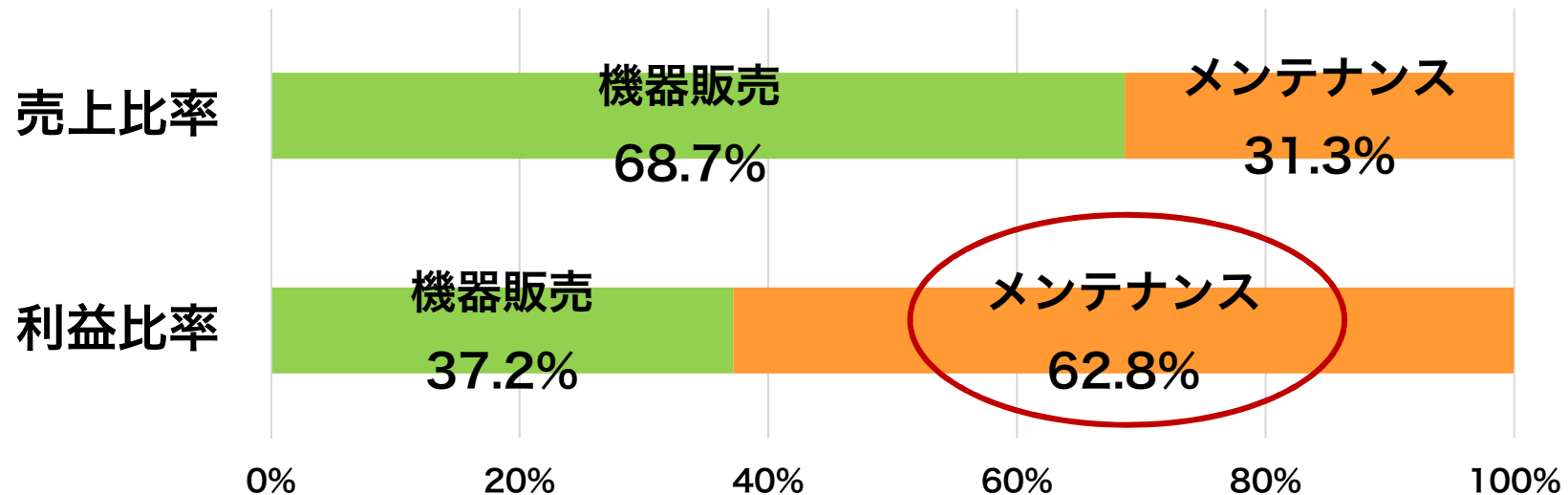
製品の売切ではなく、納品後の保守売上、消耗品売上が継続する

ボイラの寿命を15年とした場合



利益率の高いメンテ事業

※2016年3月期 ミウラグループ全体



ミウラメンテナンス ネットワーク

拠点数

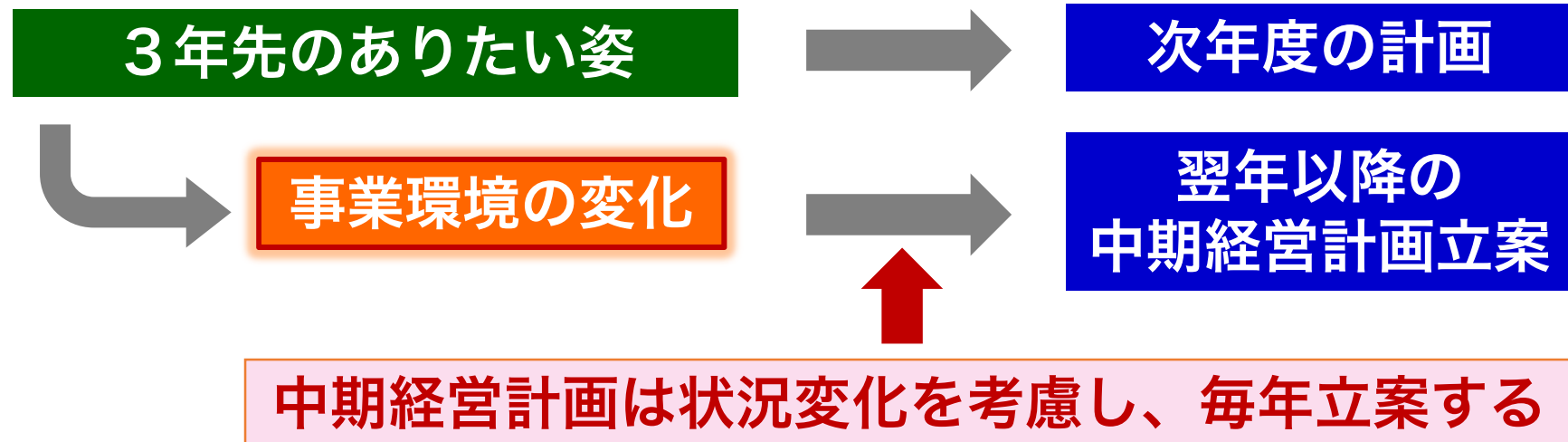
約100ヶ所

サービスエンジニア

1,000名以上



中期経営計画の考え方



ローリング方式

事業環境の変化等を考慮して毎年ローリングする方式

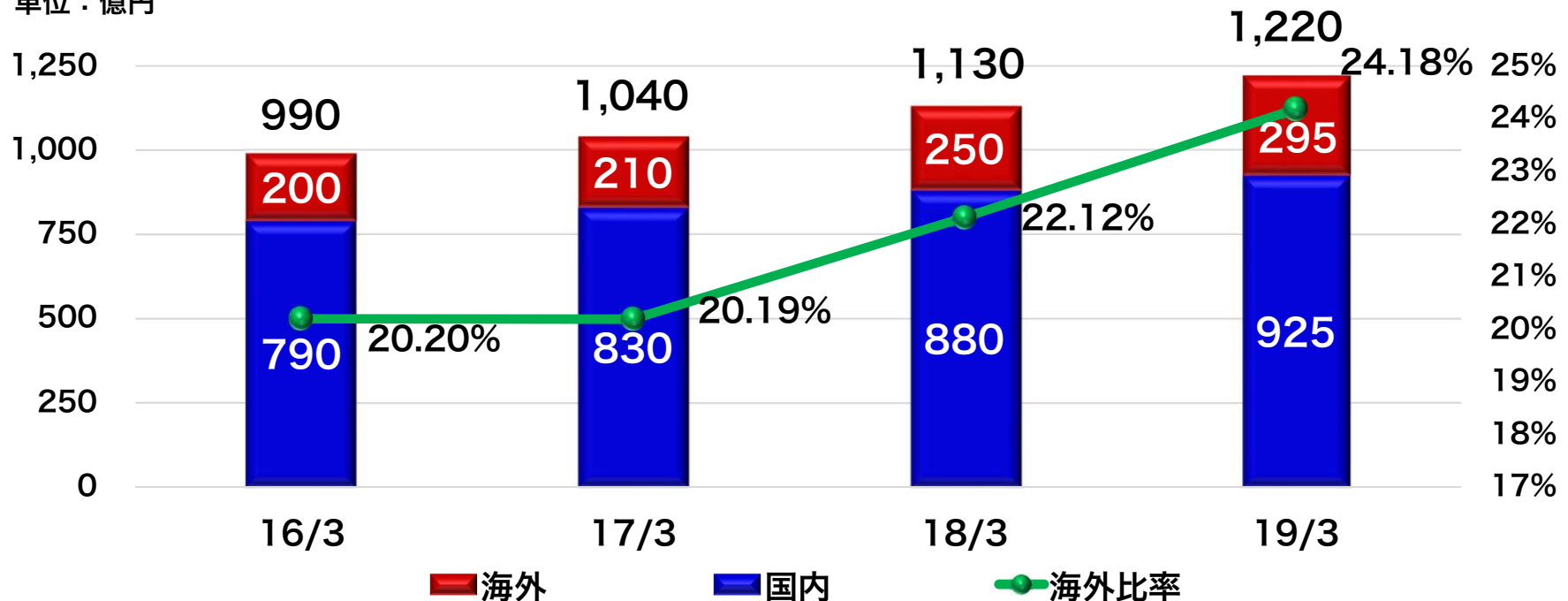
	FY 2016	FY 2017	FY 2018	FY 2019	FY 2020
中期経営計画 2016	2016-2018				
中期経営計画 2017		2017-2019			
中期経営計画 2018			2018-2020		

2016年度の中期経営計画

単位：億円

年度	2015年度 実績	2016年度 計画	2017年度 計画	2018年度 計画
売上高	990	1,040	1,130	1,220
営業利益	102	104	115	128

単位：億円



中期計画の成長戦略

年度		2015年度 実績	2016年度 計画	2017年度 計画	2018年度 計画
国内	合 計	790	830	880	925
	ボイラ	550	555	560	565
	アクア	26	30	35	40
	船用	75	97	120	140
	食機・メディカル	88	95	105	110
	特機	33	33	38	45
	その他	18	20	22	25
海外	合 計	200	210	250	295
	米州・カナダ	43	47	60	70
	韓国	66	60	60	65
	中国	67	73	90	110
	アセアン・台湾	24	30	40	50
合 計		990	1,040	1,130	1,220

マリンエンジニアリング学会『貢献賞』受賞

2016年9月27日、公益社団法人日本マリンエンジニアリング学会50周年記念式典が開催されました。公益社団法人日本マリンエンジニアリング学会は、日本経済を支える海上物流である船舶に関する船用機関・機器及び海洋機器の工学と技術の進歩発展を目的に1966年4月に発足し、船用機関の安全性や技術向上はもとより、省エネルギーや海洋汚染防止などの環境問題の研究活動にも取り組んでいます。

ミウラは、当会に1974年に入会しており、このたび、国際会議の理事協賛やボイラ関連の研究会活動など、長年にわたり学会の運営基盤の安定に著しく貢献したことを認められ、『貢献賞』を受賞しました。

今後もミウラは、世界の海洋環境保全に貢献する「バラスト水処理装置HK」をはじめ、さまざまな製品で「世界のお客様に省エネルギーと環境保全でお役に立つ」というミッションの元、よりよい商品をお客様へお届けできるよう取り組んでまいります。



熱・水・環境のベストパートナー

世界のお客様に省エネルギーと環境保全でお役に立つ



アトランタ工場



北条工場

世界一安くて良い熱・水・環境商品を
世界のお客様に届けよう

ご清聴ありがとうございました

熱・水・環境のベストパートナー



問い合わせ先

三浦工業株式会社 経営企画室

TEL 089-979-7045

FAX 089-979-7011

URL <http://www.miuraz.co.jp>